ISBN978-4-309-03214-6
C0073 ¥2900E

定価 本体2900円 (税別)
3190円 (10%税込)



PINOCCHIOP

# デビュー15周年記念・初の画集刊行!

『嘘ミーム』『転生林檎』『ラヴィット』『すろぉもぉしょん』『ありふれたせかいせいふく』『ハナウタ』etc.
2024年の新曲から2009年のデビュー曲まで、多彩なビジュアルワークス(他クリエイター制作作品を含む)をフルカラー掲載。ピノキオピーの脳内世界を堪能せよ!

ISBN978-4-309-03214-6
C0073 ¥2900E

定価 本体2900円(税別)
3190円(10%税込)



PINOCCHIOP

ピノキオピー

VISUAL COLLECTION 2024-2009

# PINOCCHIO

河出書房新社

ピノキオピー VISUAL COLLECTION 2024-2009

# PINOCCHIO




『神っぽいな』『匿名M』『腐れ外道とチョコレゐト』ほか

**全112楽曲のイラスト・キャラクターデザイン一挙収録**

どう着想し、作詞作曲から動画まで、すべて手がける鬼才ボカロPの脳内を徹底解剖!

どう表現するか? 20,000字超えの本人解説書き下ろし!!

河出書房新社

ピノキオピー VISUAL COLLECTION 2024-2009

# PINOCCHIO




河出書房新社

ピノキオピー VISUAL COLLECTION 2024-2009 PINOCCHIO

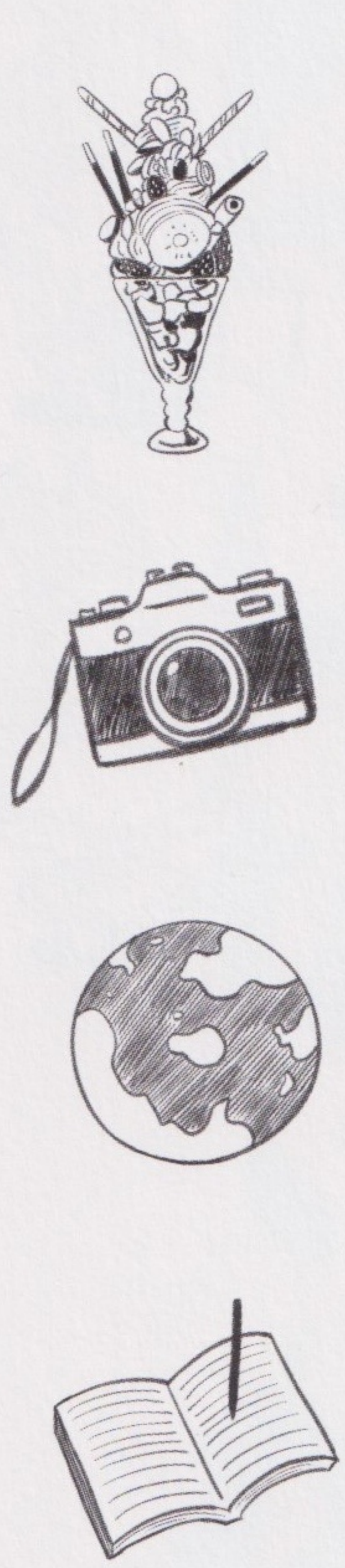
## ピノキオピー


2009年に動画共有サイトにてボーカロイドを用いた楽曲を発表し、ピノキオピーとして活動開始。以降も精力的にオリジナル楽曲を発表しつつ、イラストやMVの制作、バンドセットでのライブパフォーマンス、他アーティストへの楽曲提供など多方面で活動している。代表曲は『すろぉもぉしょん』『神っぽいな』『匿名M』『ノンブレス・オブリージュ』『腐れ外道とチョコレゐト』など。





嘘ミーム / Fake meme　2024





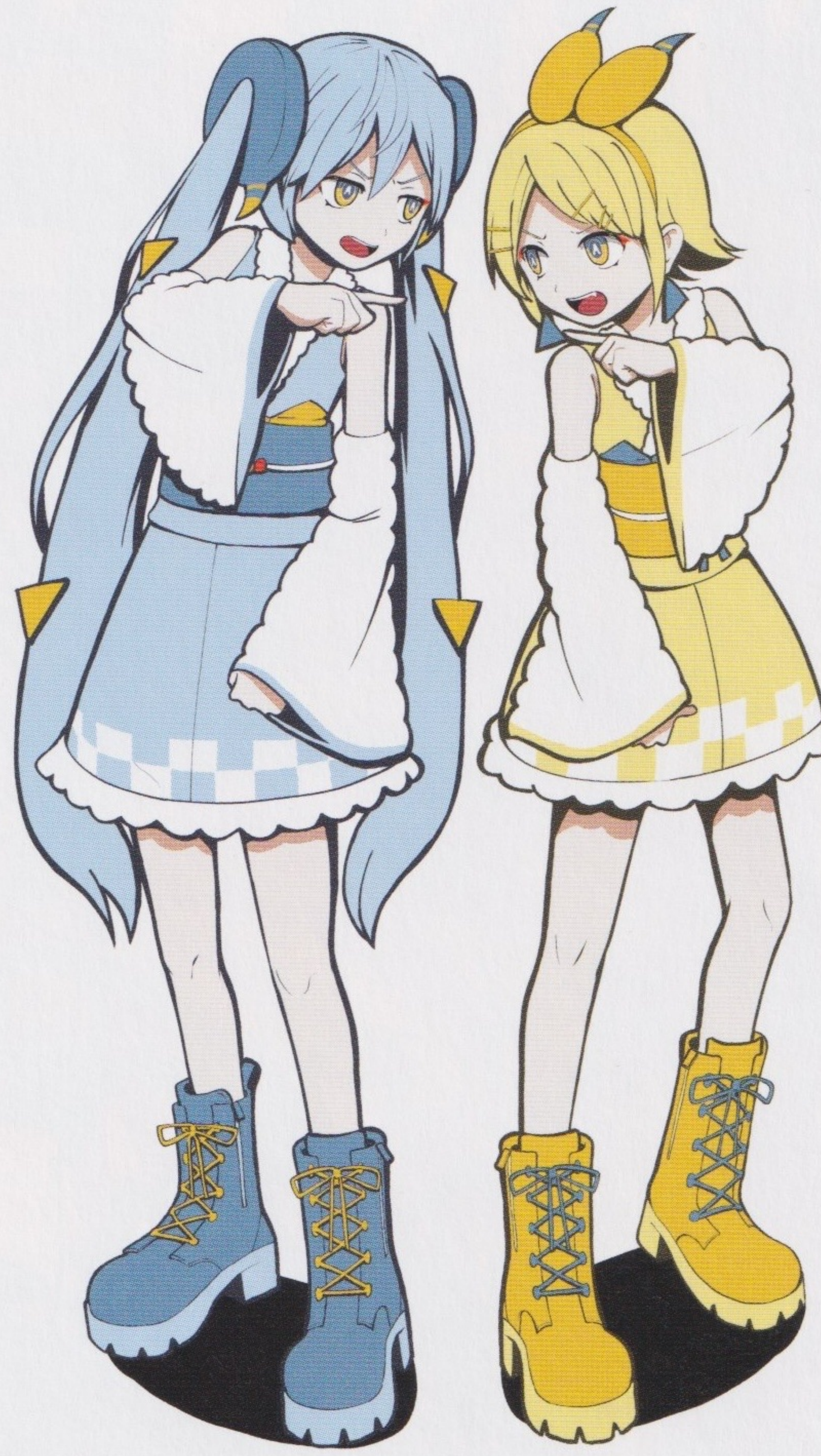






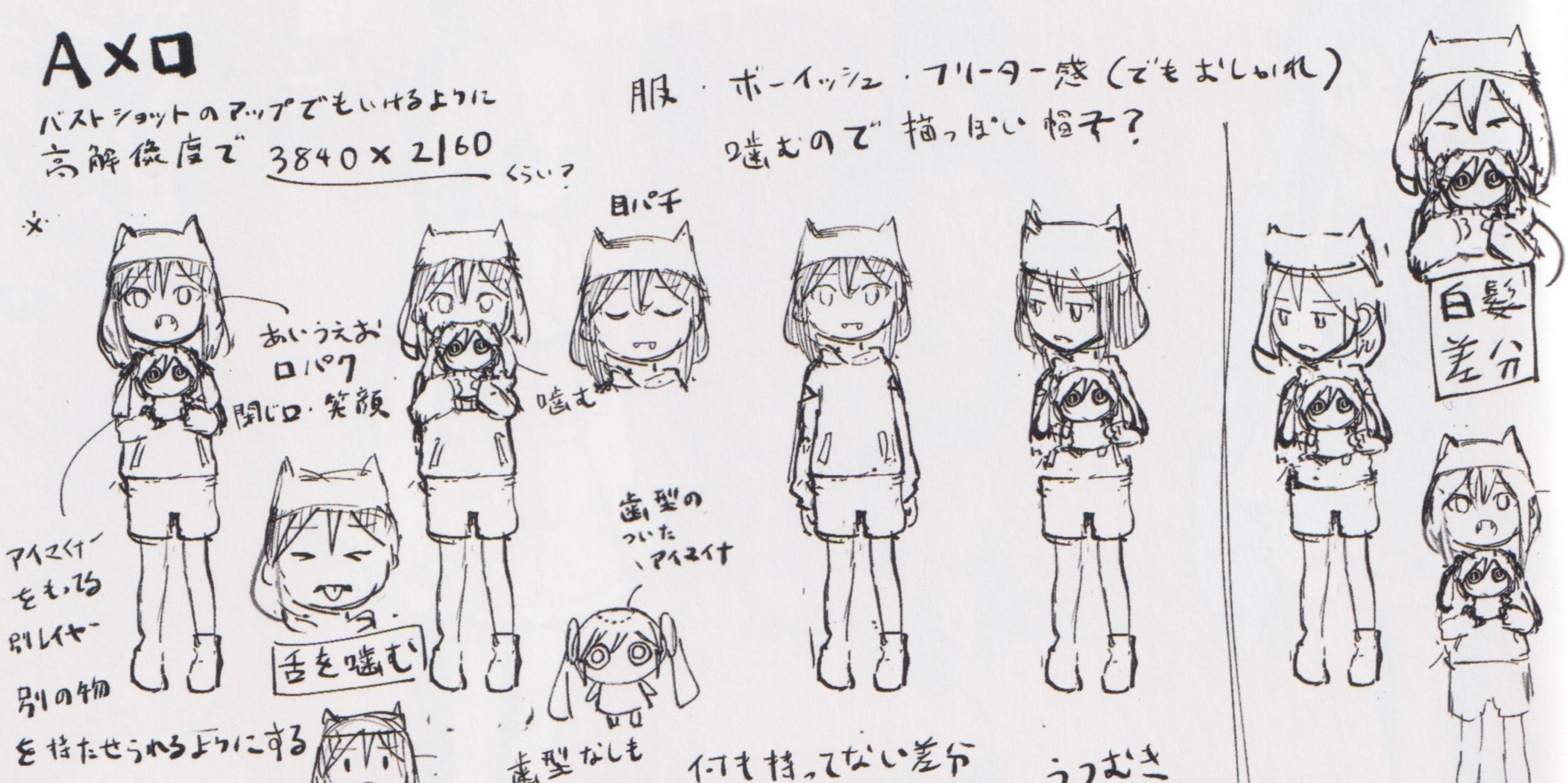
A じゃないか /Isn't it "A"　2024






Aじゃないか



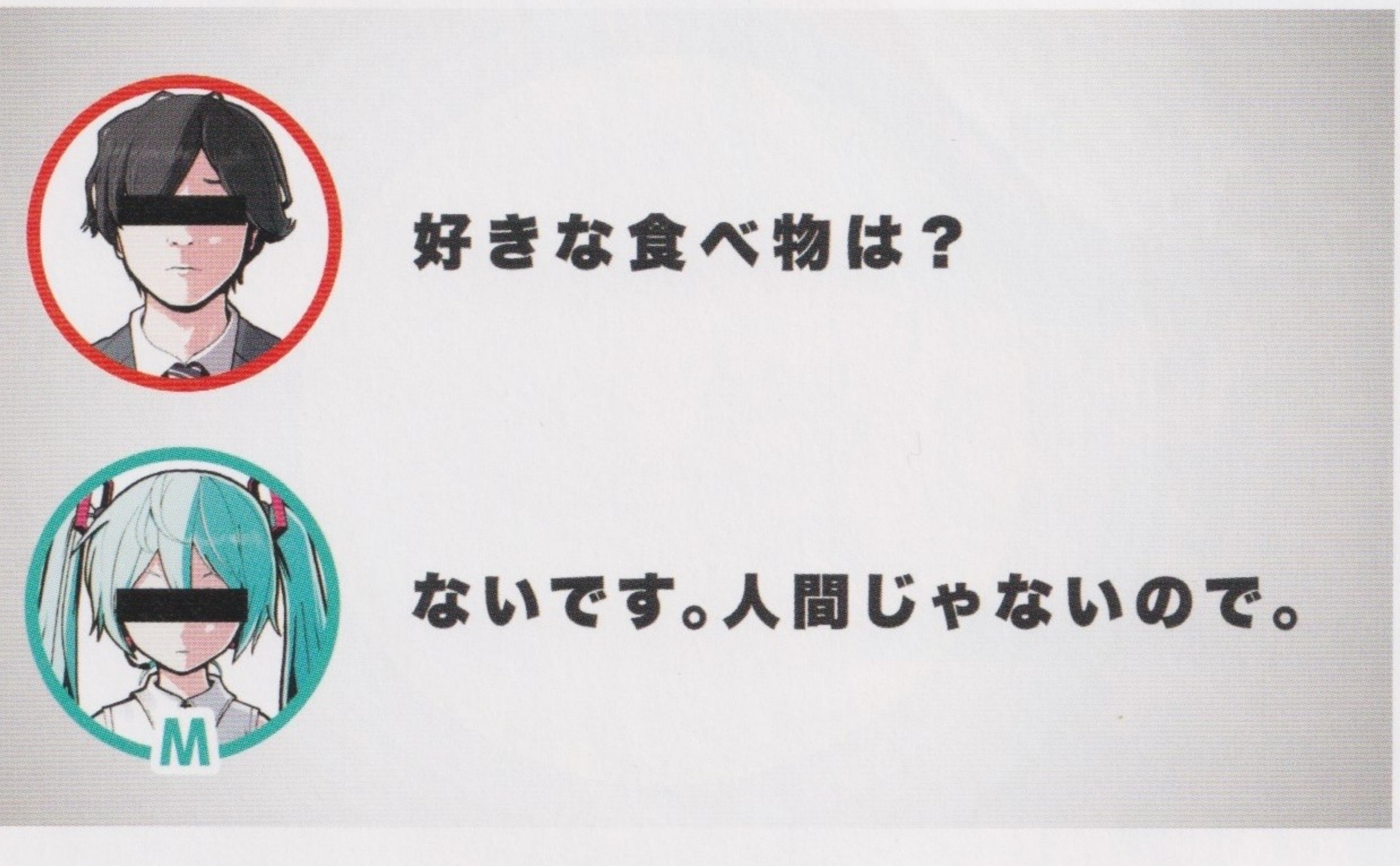

甘噛みでおねがい / Please Play-Bite　2023　Illust：寺田てら　Rough Illust：ピノキオピー


アポカリプスなう / Apocalypse Now　2023






匿名M / Anonymous M　2023　3DCG：あるし




みんながハッピーならいいな！
って思います。


匿名新聞
ないです。人間じゃないので。
匿名Mです。
なんか歌ってる奴です。
マイクテス、テス。
特定しないでね。







キラースパイダー / Killer Spider　2022



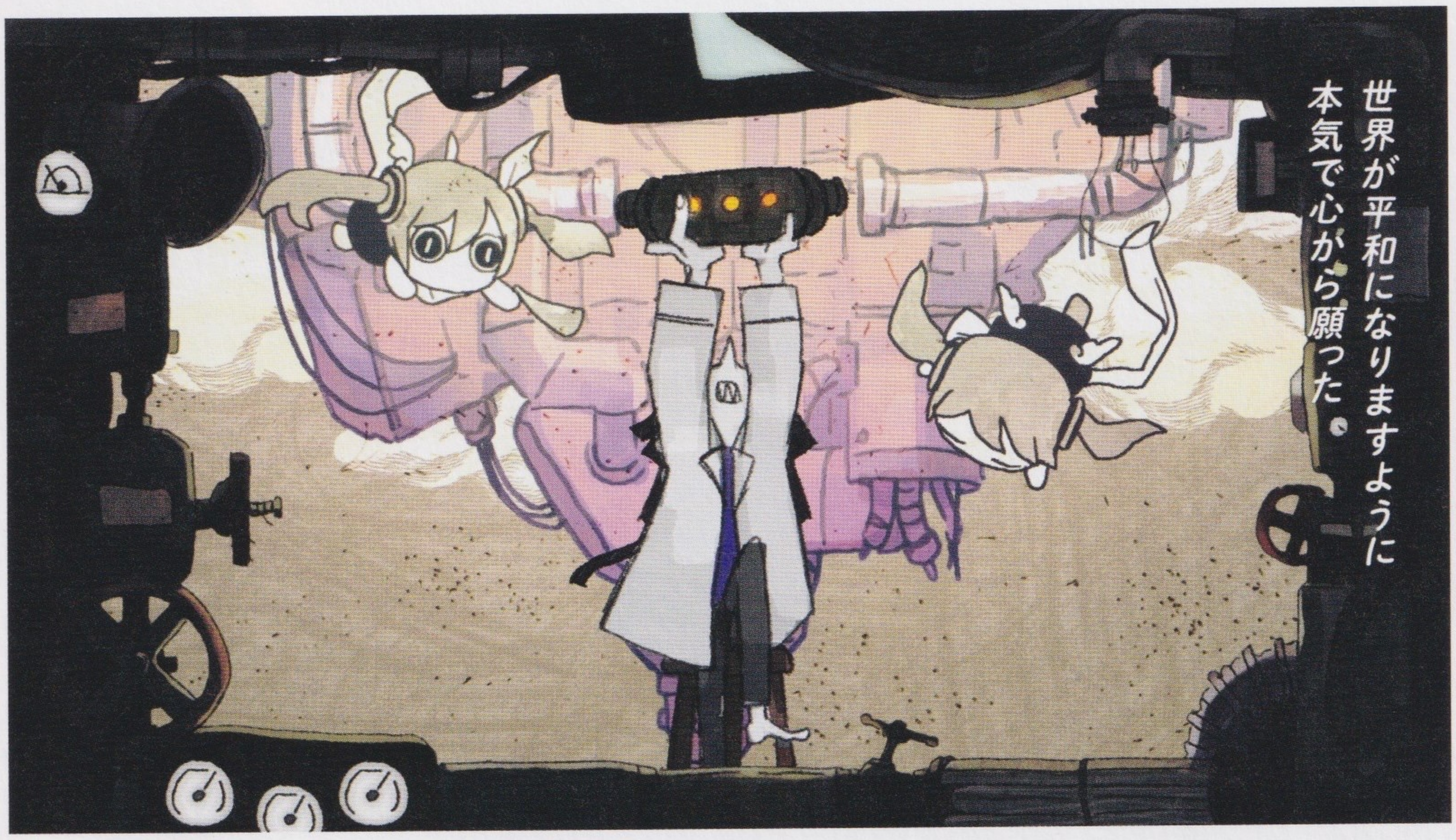
デビルじゃないもん / (Not) A Devil　2023　Illust：ピノキオピー　Character Design : DMYM　© DECO*27 / © OTOIRO




余命 2:30 / 2:30 Life Remaining　2022


転生林檎
Reincarnation Apple







転生林檎 / Reincarnation Apple　2022　Video Director : えいりな刃物





コスモスパイス / Cosmospice　2022




咖喱

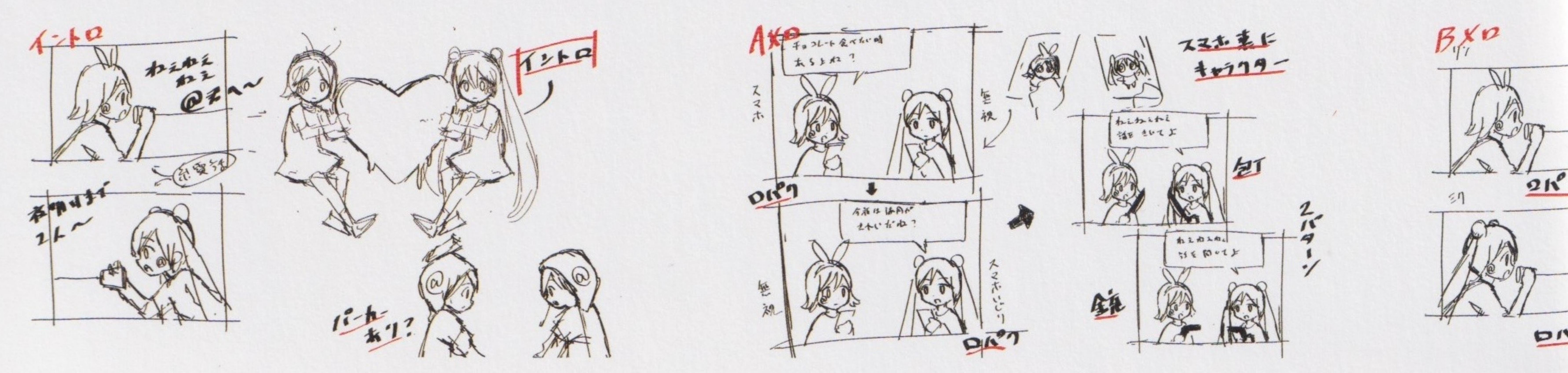




神っぽいな / God-ish 2021




ねぇねぇねぇ。/ Nee Nee Nee.　2021　Illust : 寺田てら　Rough Illust : ピノキオピー







リン
怒り顔
ミク




サビ
サビ1
サビ2
ラスト
ラスサビ
基本
立ち絵




キャラクター
アイマイナミク
アイマイナリン
どうして



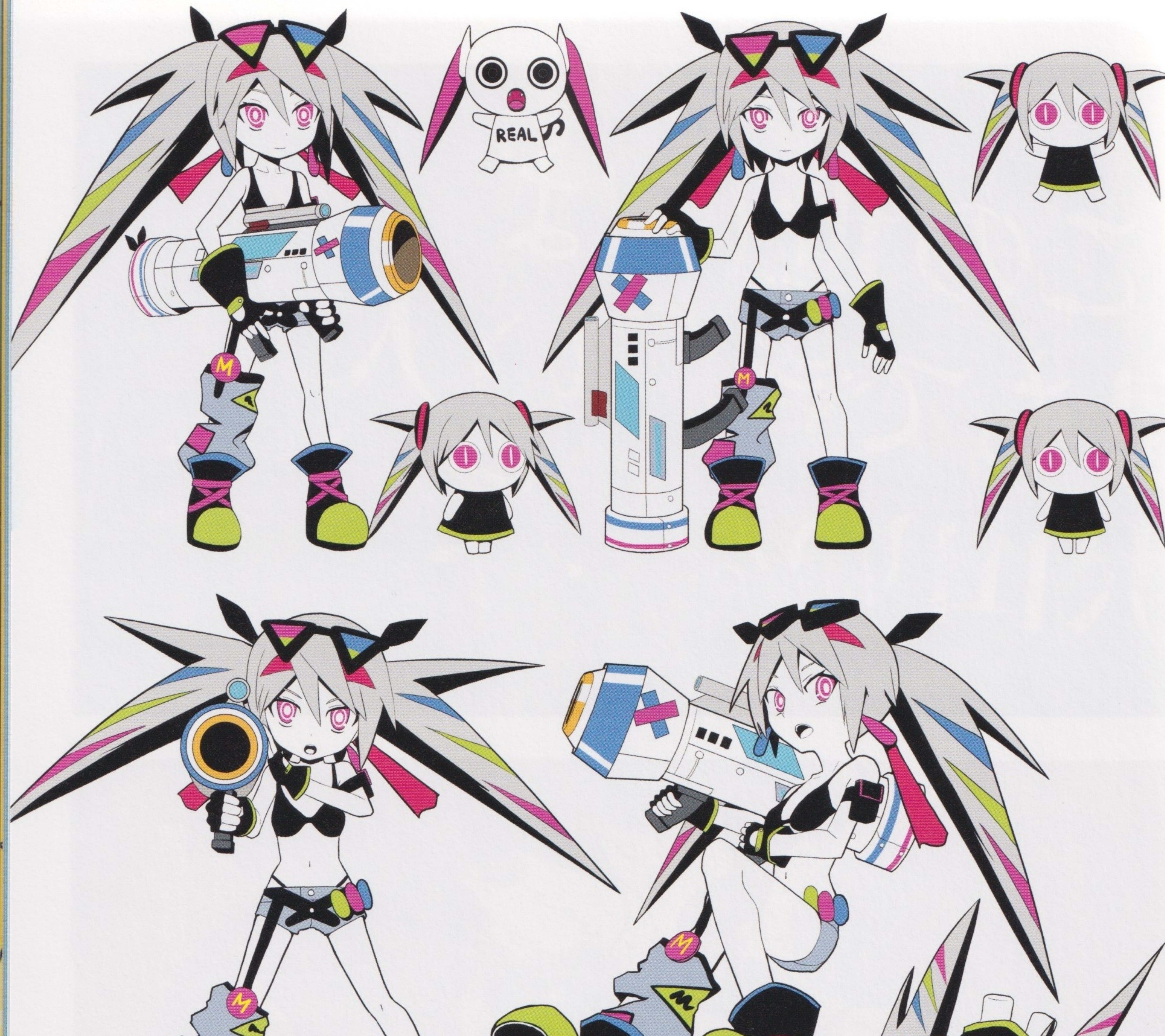




ノンブレス・オブリージュ / Non-breath oblige　2021　Video Director : えいりな刃物

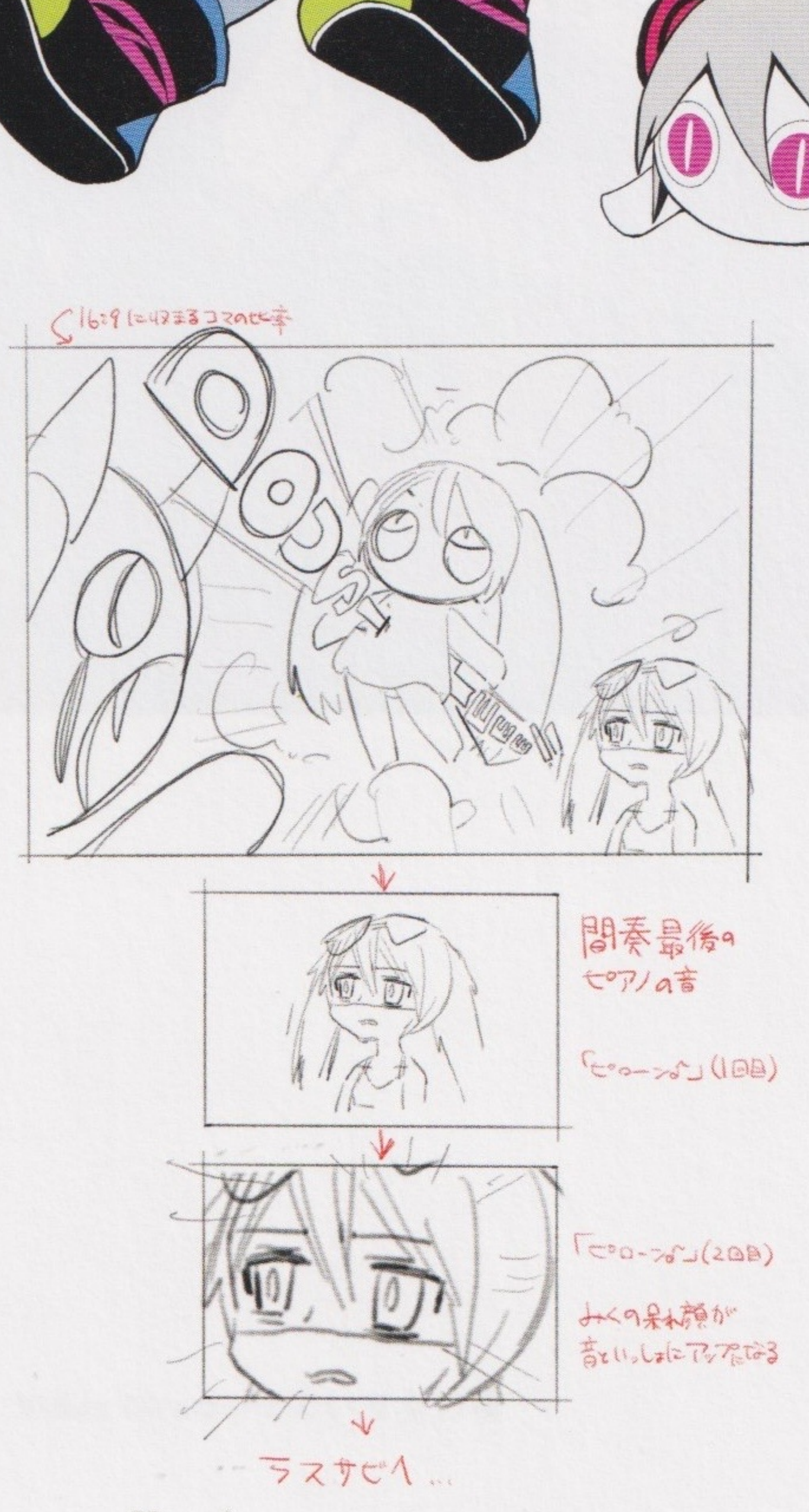

「この世には
息もでき い人が
沢山いる ですよ」


醜い感情が吹き出し
真っ白い鳥になるんだな



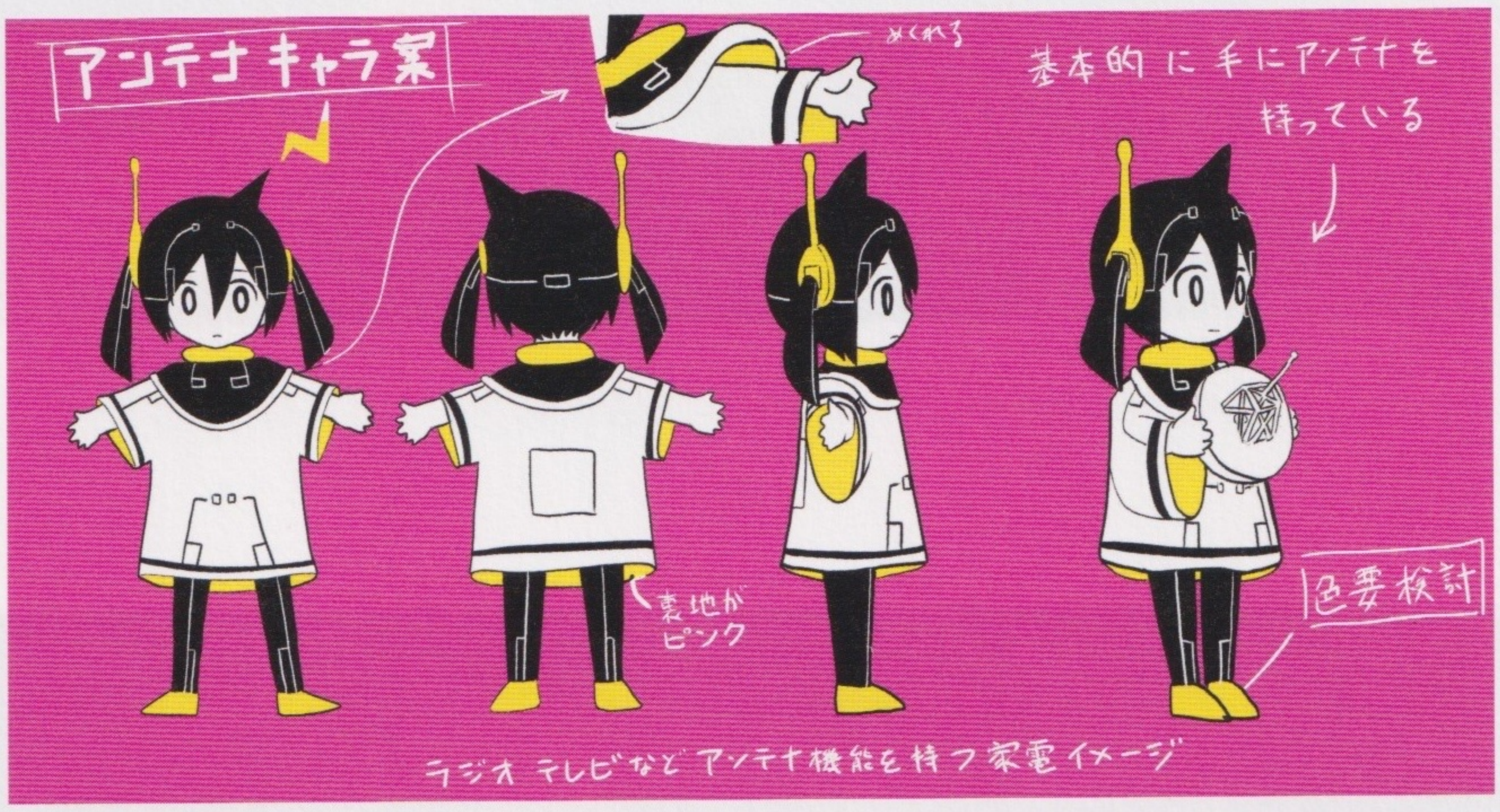






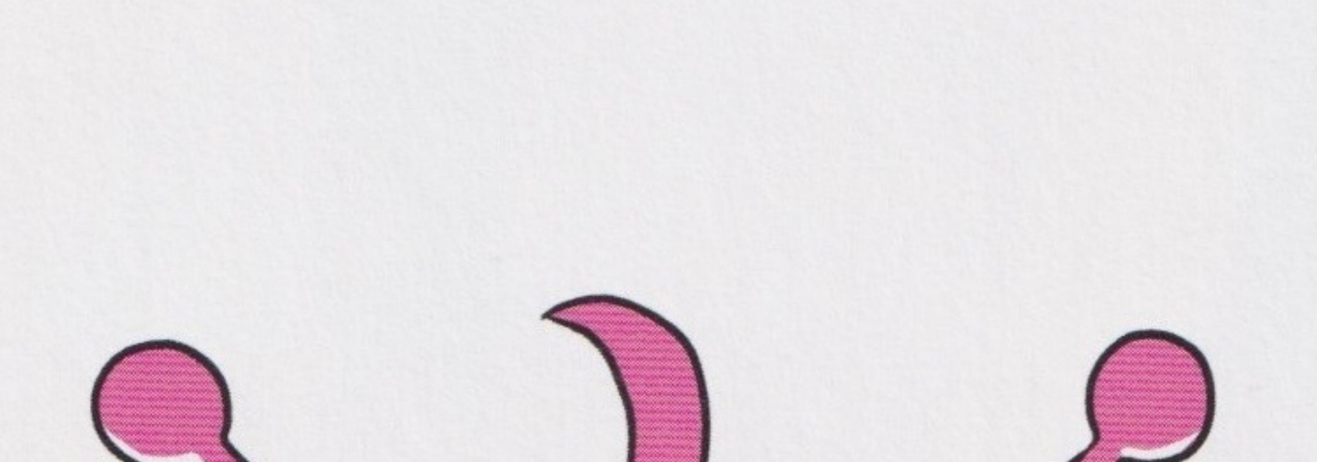

リアルにぶっとばす / KICK-ASS "LITERALLY 2021 Illust：ピノキオピー Rough Illust：野良いぬ 



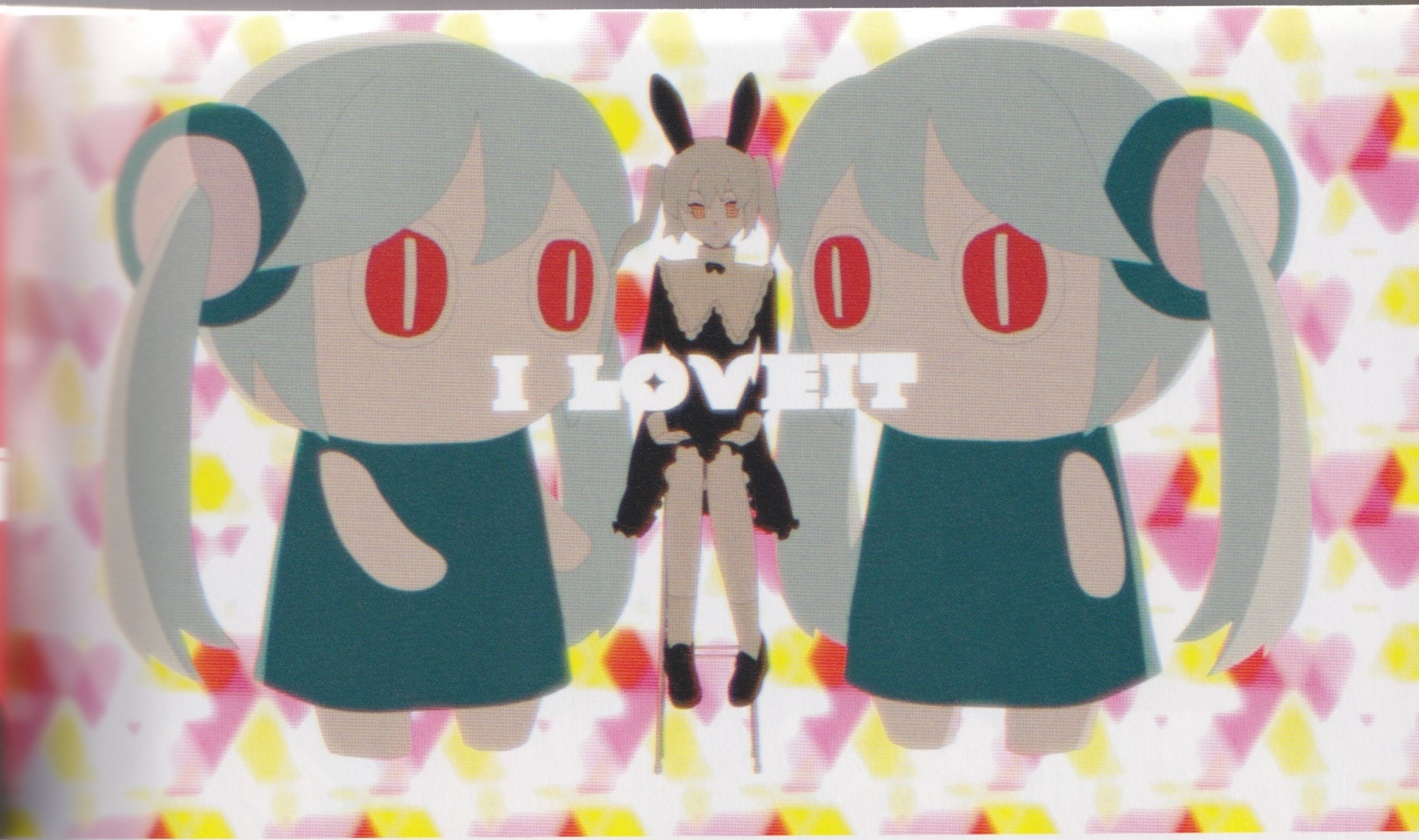

アンテナ / Antenna　2021　Video Director : yumasaito　3D Character Modeling : Aono.Y　Rough Illust : ピノキオピー

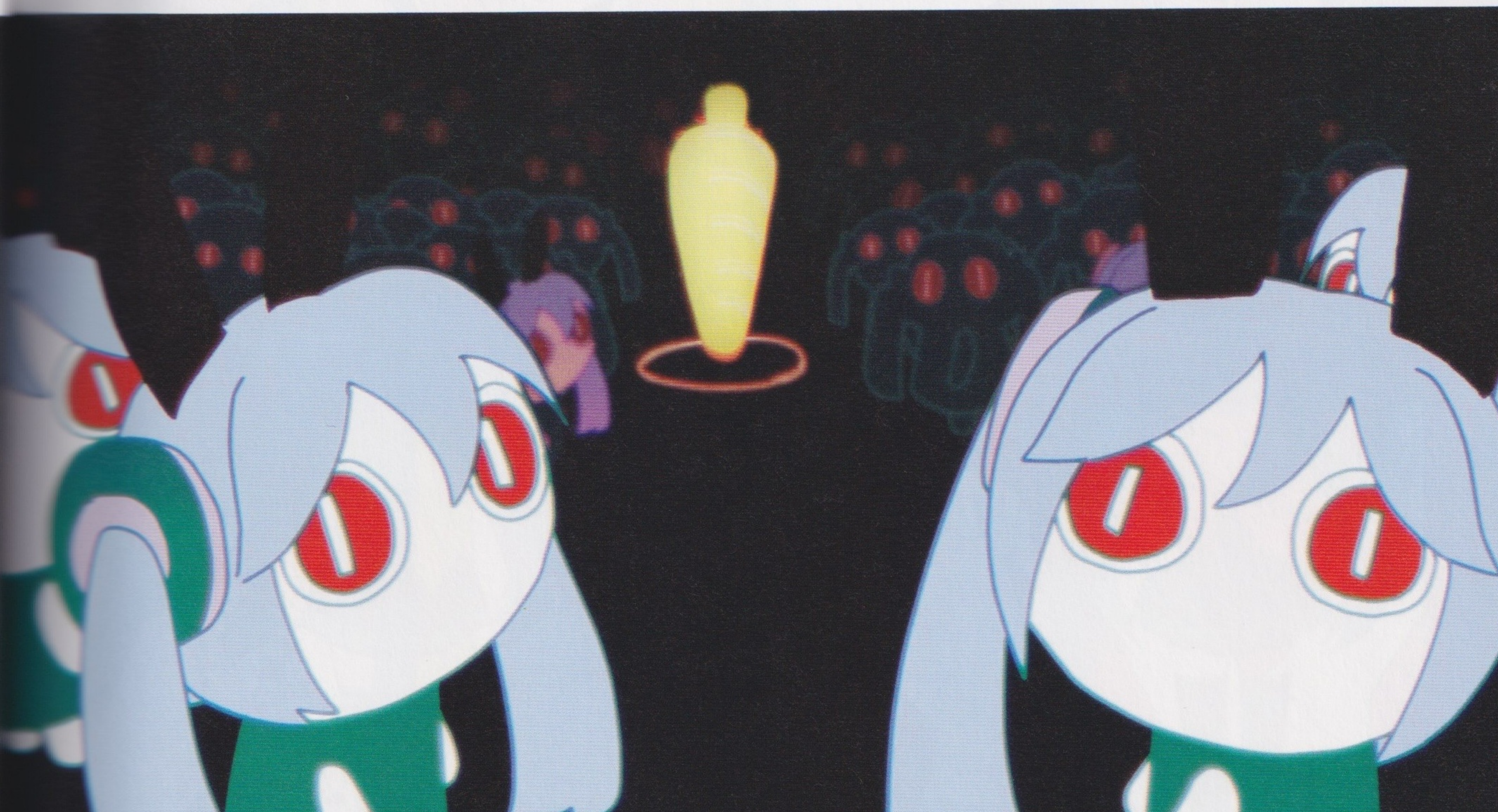





Love





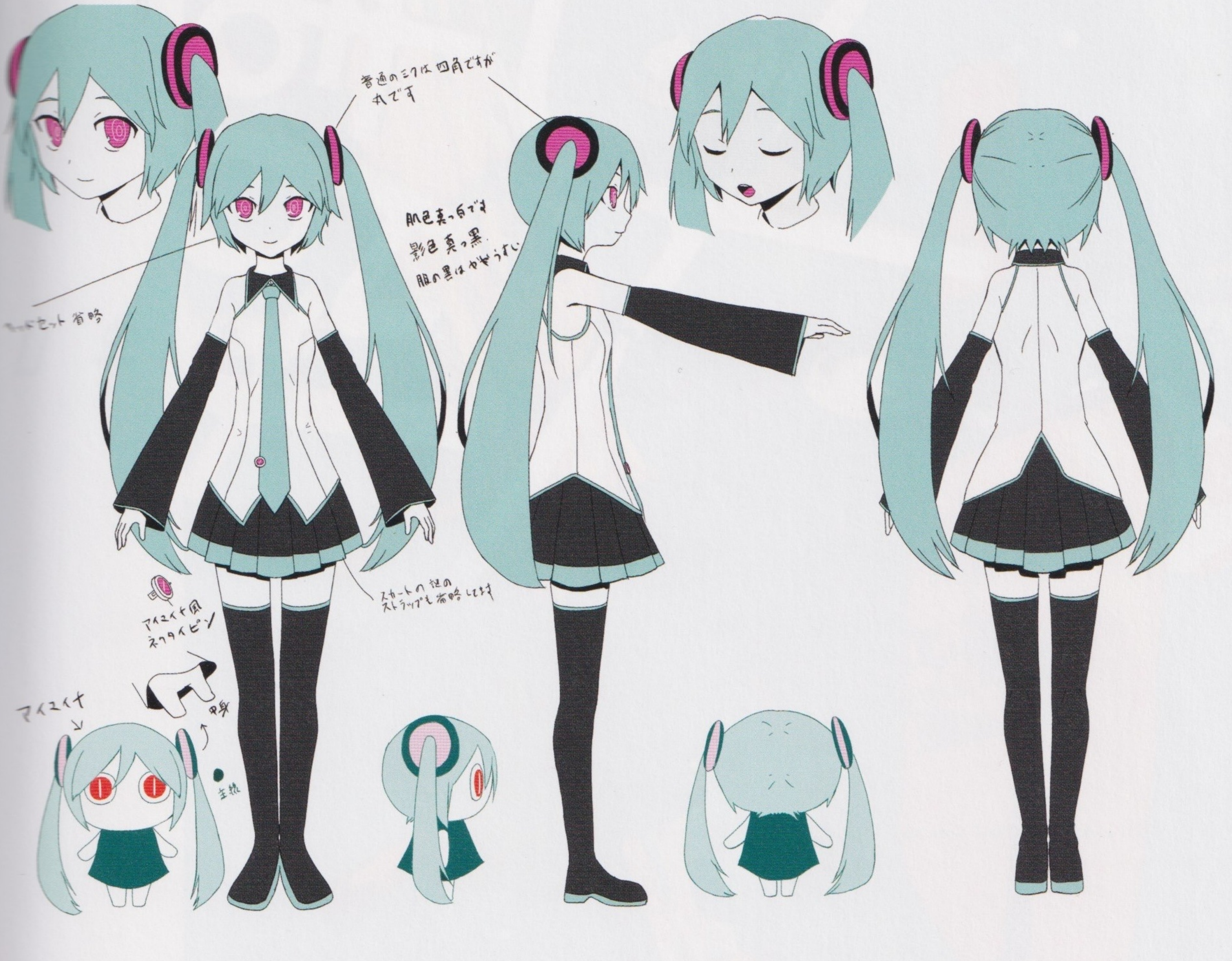
ラヴィット / Loveit　2020　Video Director : えいりな刃物



シークレットひみつ / Secret HIMITSU　2020

愛されなくても君がいる / Because You're Here　2020　Video Director : 10second　Rough Illust : ピノキオピー






セカイはまだ始まってすらいない / The World Hasn't Even Started Yet　2020　Video Director : 山口駿

# 10年後のボーカロイドのうた



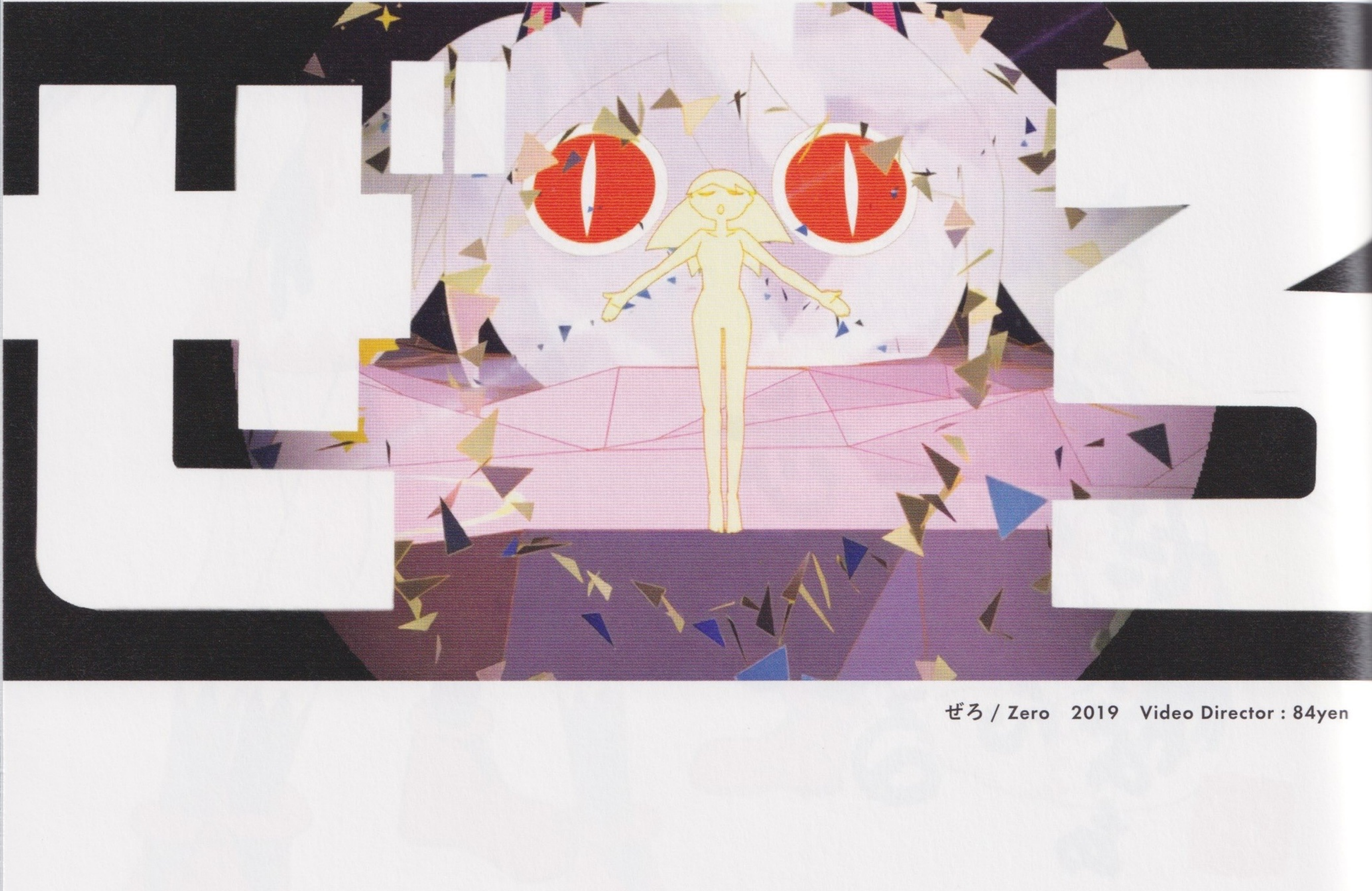

アルティメットセンパイ




アルティメットセンパイ / Ultimate Senpai　2019



玉葱 + / Onion+ 2019




ぜろ / Zero 2019 Video Director : 84yen

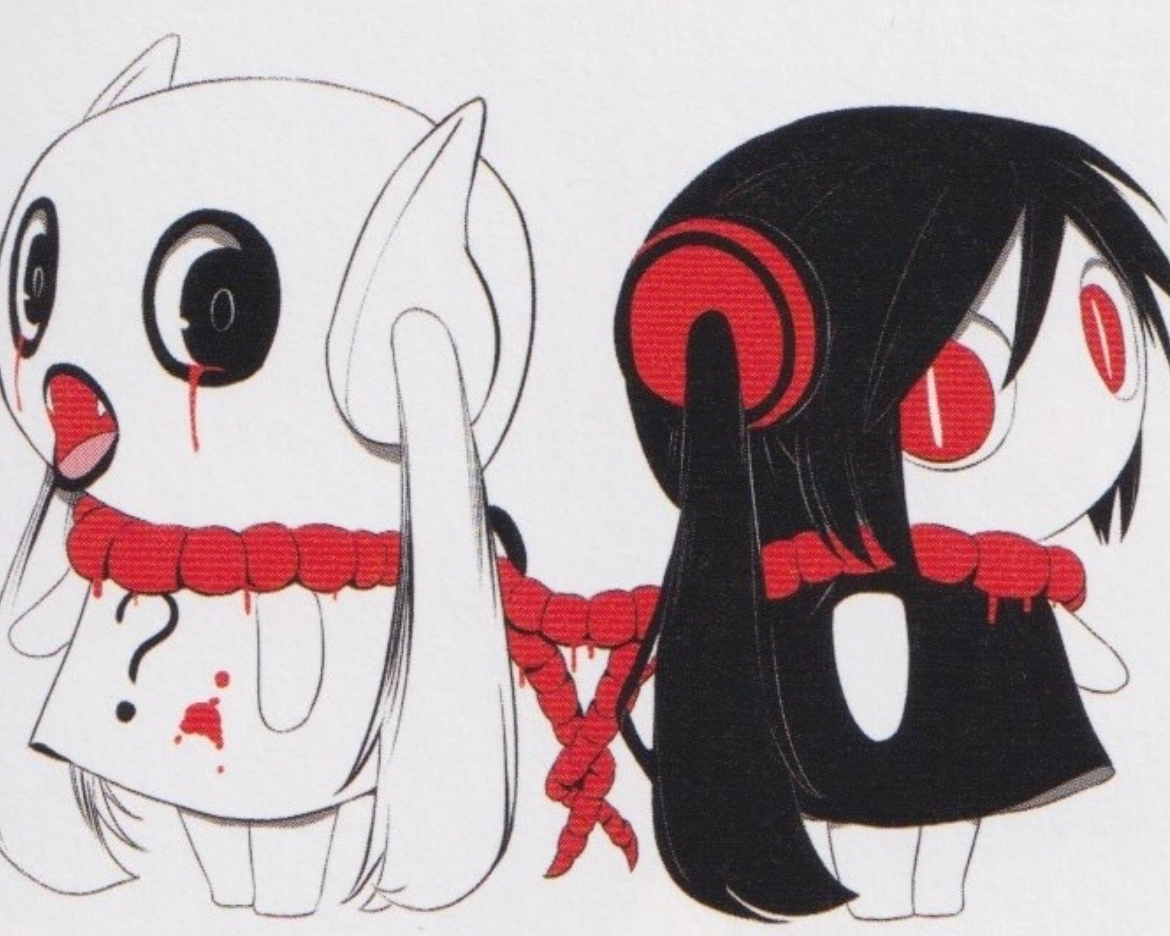


恋の恋による恋のための恋 / Love for Love by Love of Love　2019


内臓ありますか











内臓ありますか / What's Inside　2019



ビューティフルなフィクション / Beautiful Fiction　2018　Video Director : 山口駿

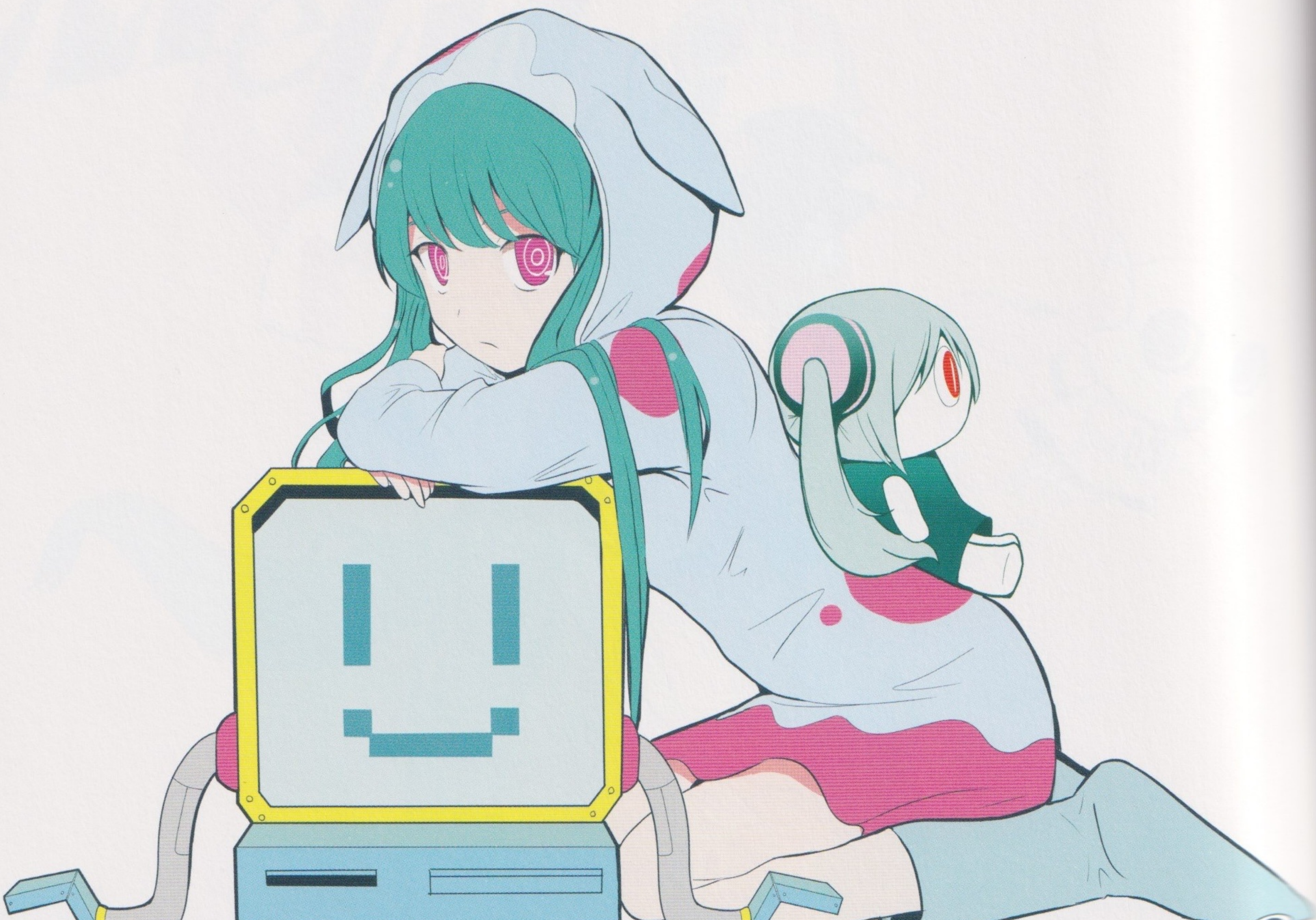



閻魔さまのいうとおり / Whatever Yama Says Goes　2018

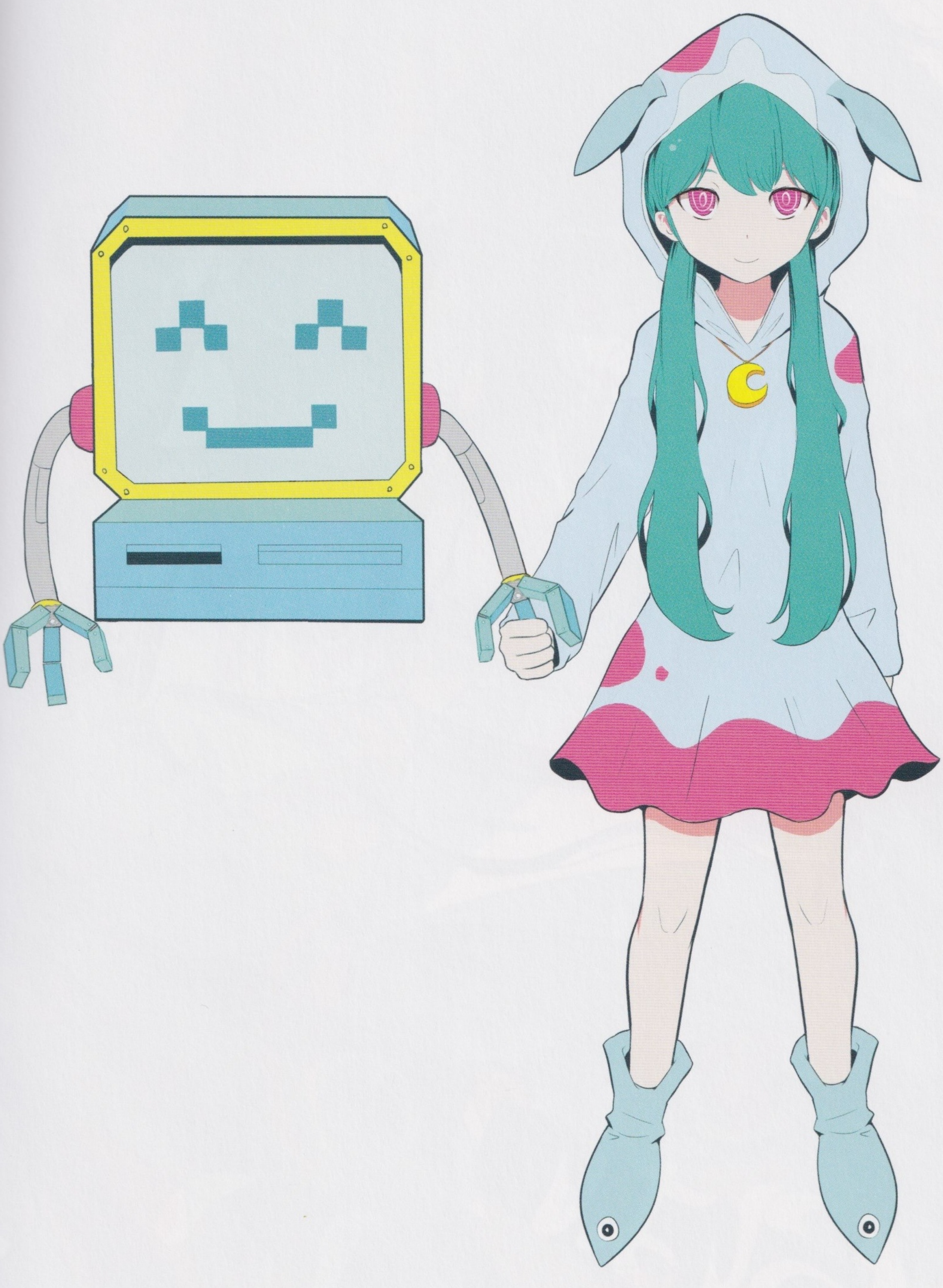

MeiMei



Mei Mei 2018












おばけのウケねらい / Ghosts Play to the Audience　2018


霊



ボカロはダサい / Vocaloids are Lame　2017　Illust : ツインテール今村　Video Director : yumasai



シックシックシック / Sick Sick Sick　201



君が生きてなくてよかった / Thanks for being Lifeless　2017　Illust : ピノキオピー　Video Director : yumasaito


剃



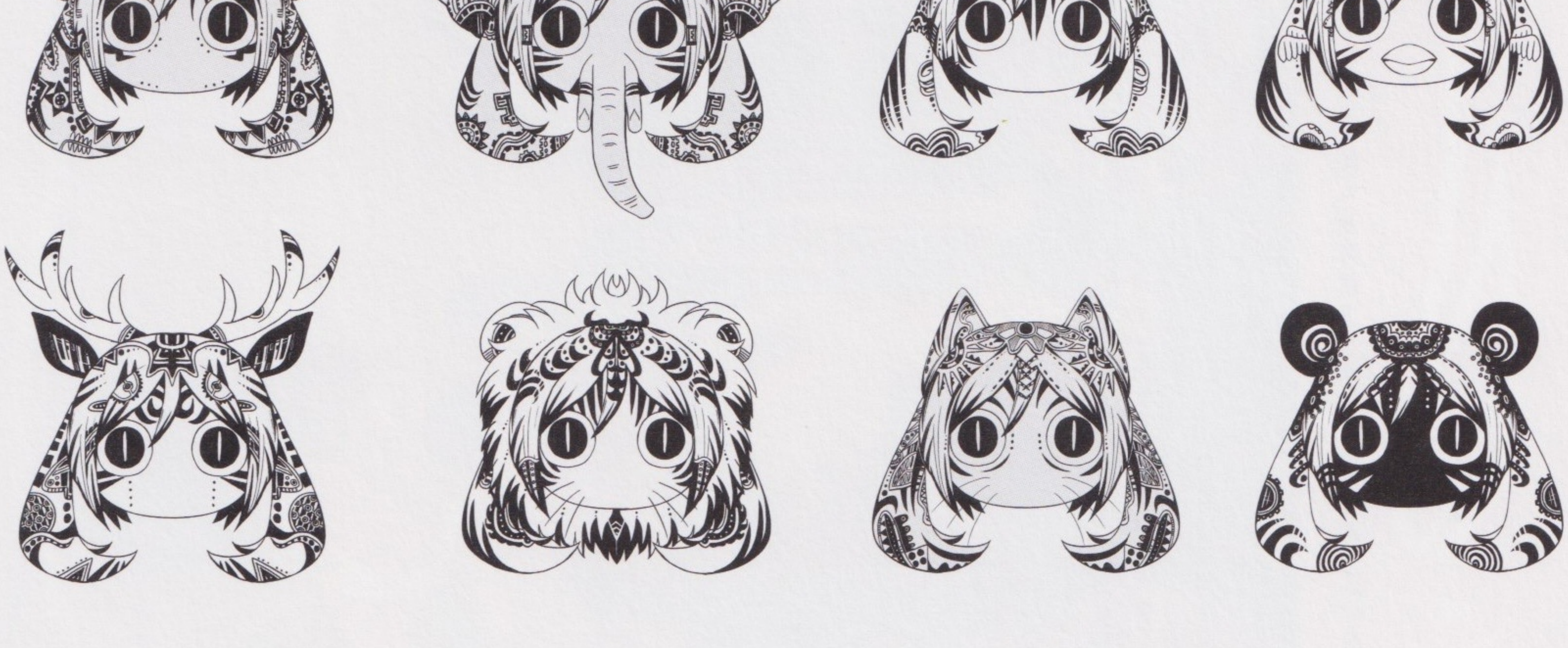

ぼくらはみんな意味不明 / Nobody Makes Sense　2017　Illust : ピノキオピー　Video Director : yumasaito



遊星まっしらけ / Planet Masshirake　2016　Video Director : yumasaito



SAYONARA HUMAN　2016　Video Director : 山口駿



動物のすべて / Everything About Animals　2016



きみも悪い人でよかった / I'm glad you're evil too　2016





すきなことだけでいいです / All I Need are Things I Like　2016　Video Director : Aono.Y

# hanauta

ピノキオピー



モチベーションが死んでる / Motivation is Dead 2015 Illust : ツインテール今村・ピノキオピー



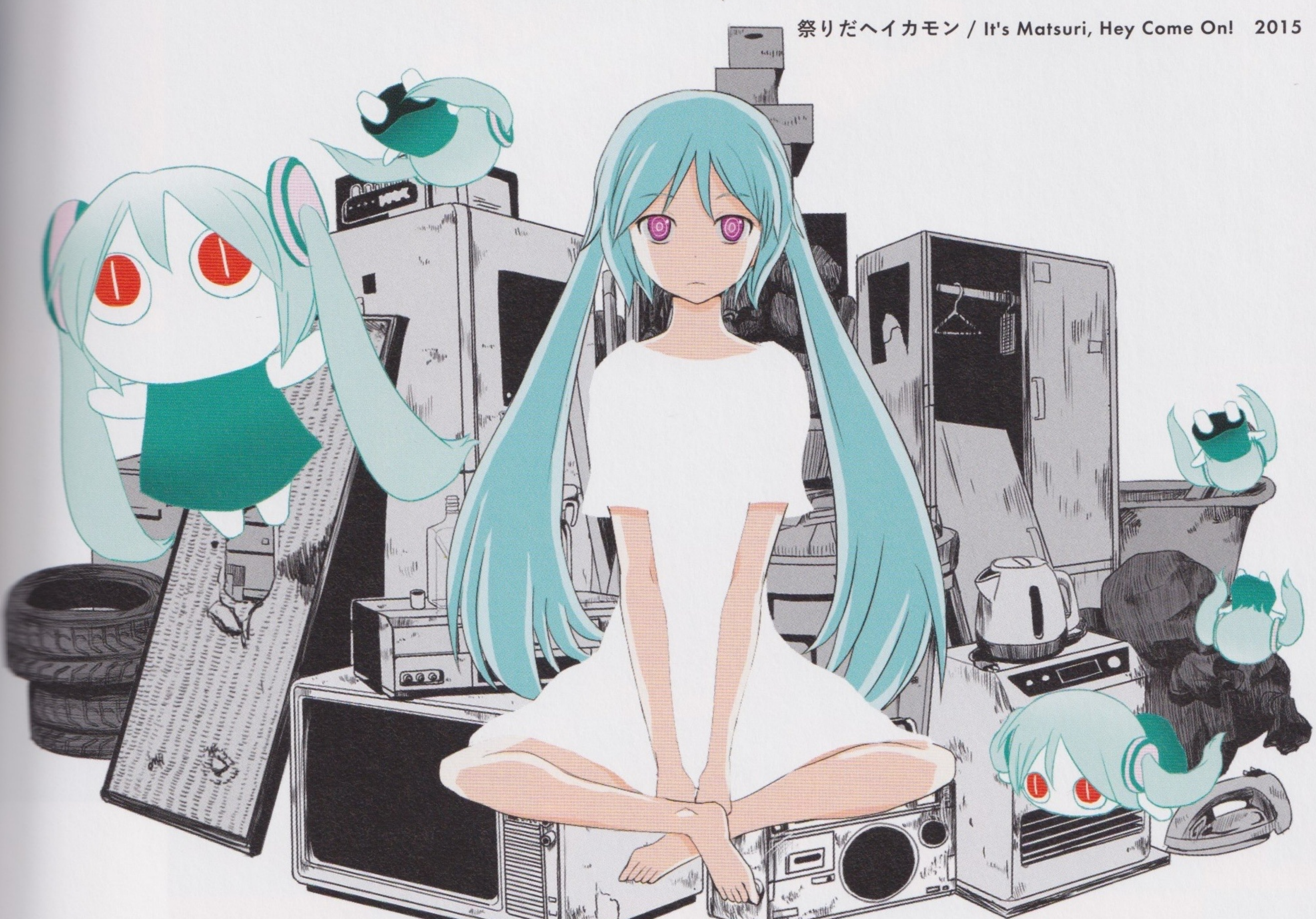

東京マヌカン / Tokyo Mannequin 2015



1year 2015 Illust : サボテリ



祭りだヘイカモン / It's Matsuri, Hey Come On!　2015



空想しょうもない日々 / Crappy Fantasy Days　2015








はじめまして地球人さん / Nice To Meet You, Mr. Earthling 2015 Video Director：エジエレキ






頓珍漢の宴 / Tonchinkan Feast　2015




ブラックホールヶ丘商店街 / Black Hole Ville Shopping Street 2014



よいこのくすり / Medicine for Good Kids　2014



こあ / Core [illegible]




たりないかぼちゃ / Tarinai Kabocha 2014



Last Continue 2014


すろぉも


しょん



ラブ イズ オノマトペ / Love Is Onomatopoeia 2014




絵の上手かった友達 / My Old Friend Who Was Good At Drawing 2014 Video Director : 森井ケンシロウ




それぞれに人生がある / Sorezore Ni Jinsei Ga Aru　2014　Video Director : クロユキ




ゴージャスビッグ対談 / Gorgeous Big Conversation　2014




ニナ / NINA 2013 Video Director : エジエレキ



胸いっぱいのダメを / Whole Lotta No's　2013



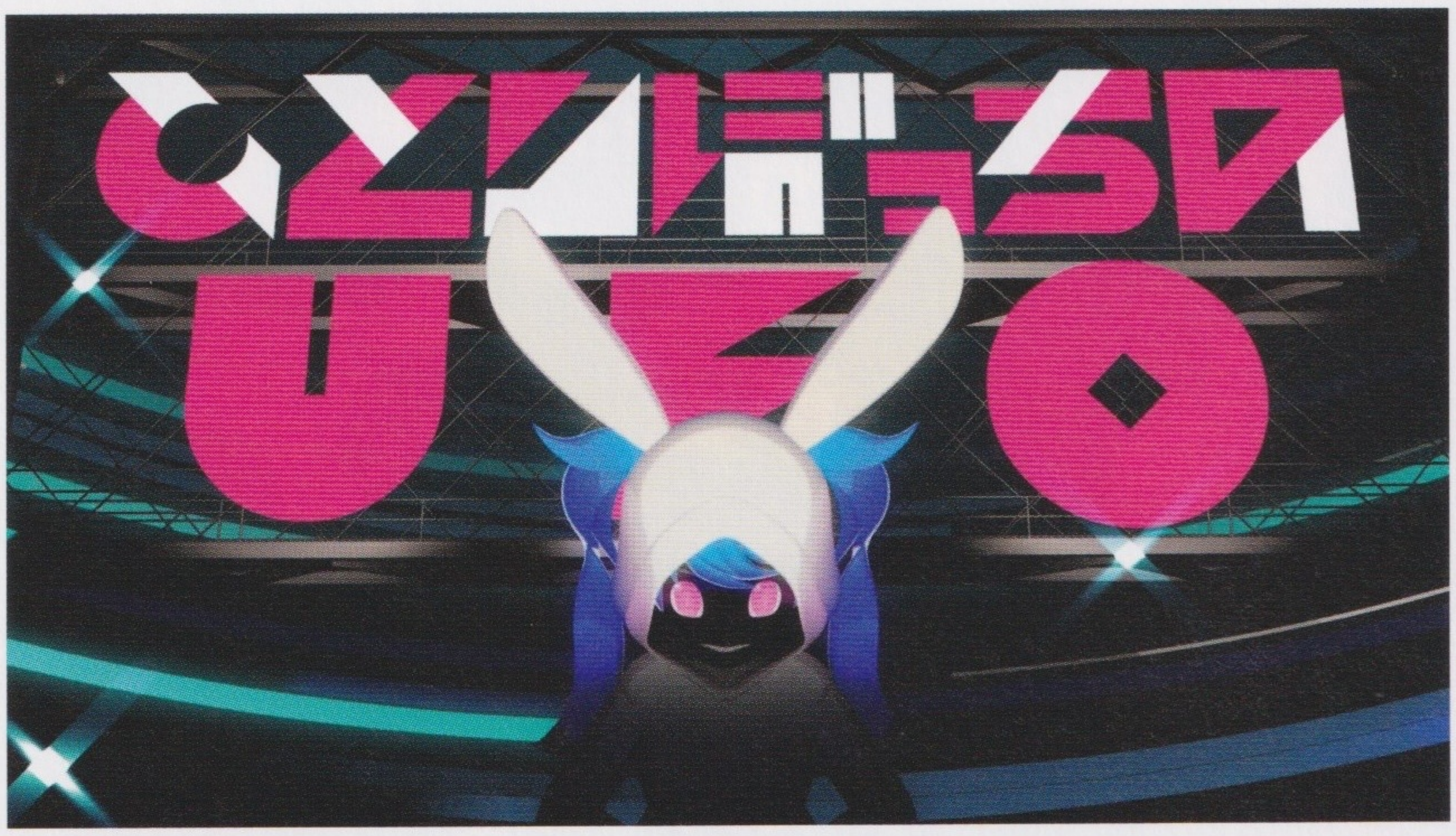
こどものしくみ / Kodomo no Shikumi　2013




ストレンジアニマル / Strange Animal 2013



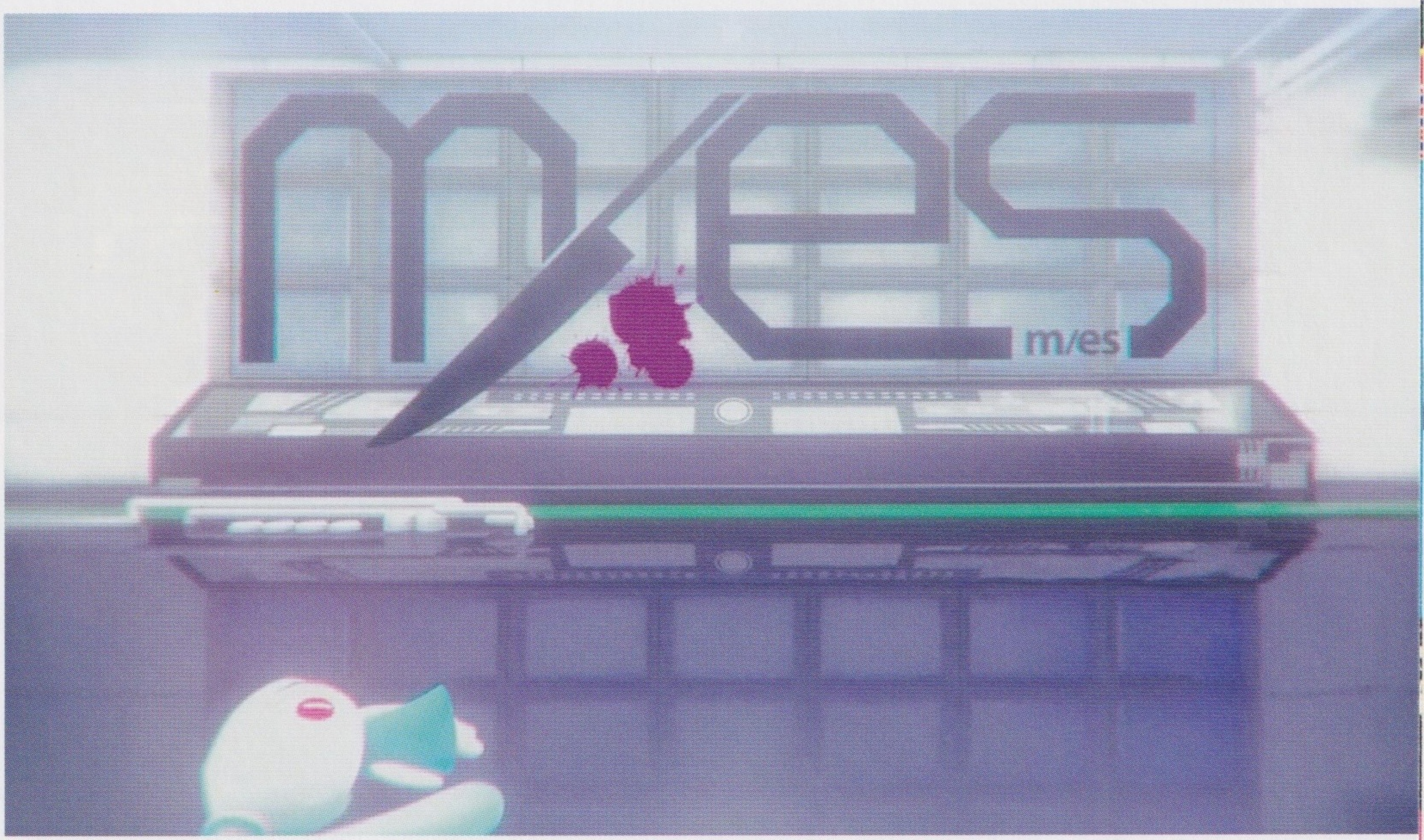

ゲームスペクター２ / Game Specter 2　2013



ひとりぼっちのユーエフオー / Hitoribocchi No UFO　2013　Video Director : エジエレキ



アッカンベーダ / Akkanbee da　2013　Video Director : エジエレキ　© EMP Inc.



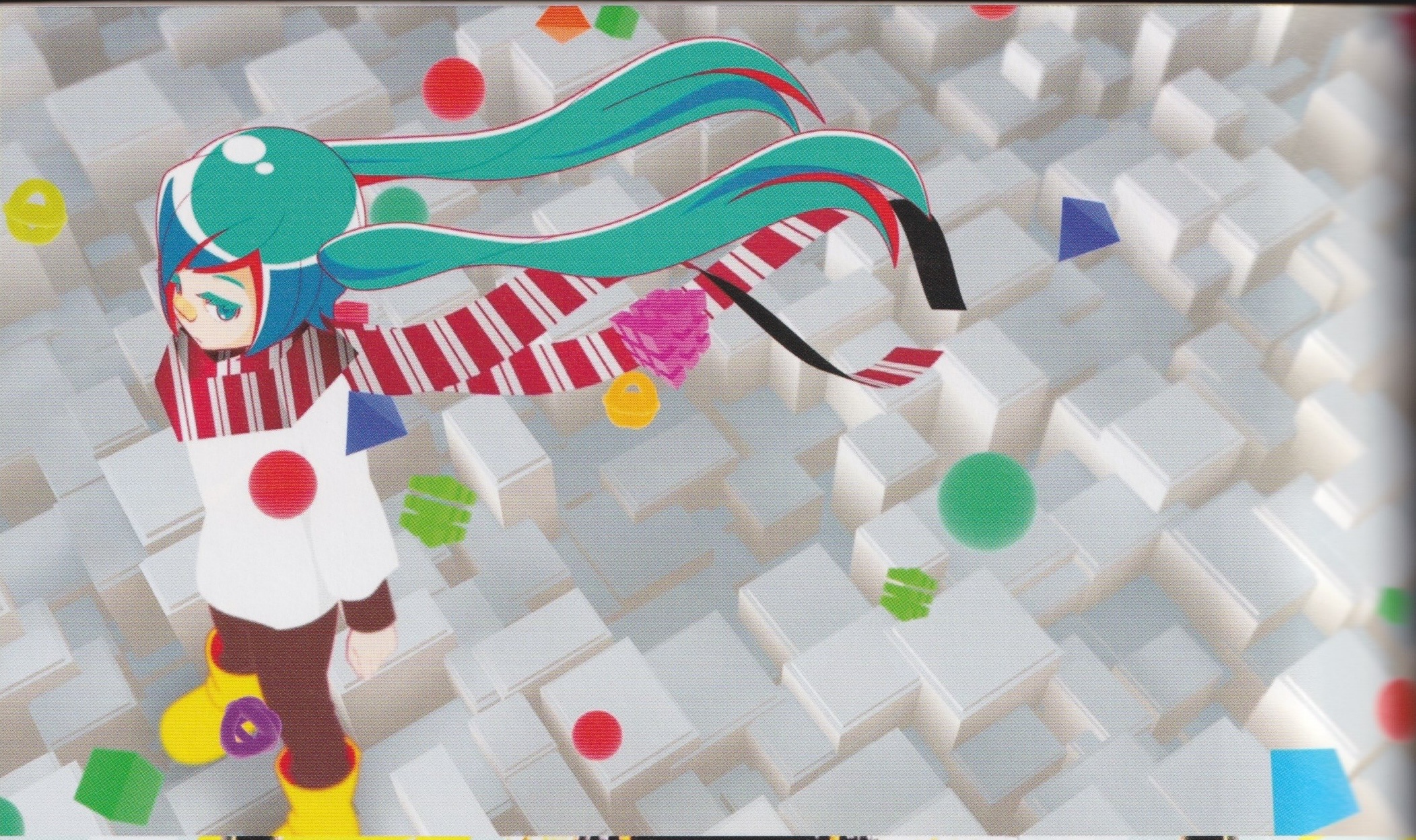

m/es　2012　Video Director : すす泥棒




週刊少年バイバイ / Weekly Shonen BYE-BYE　2012

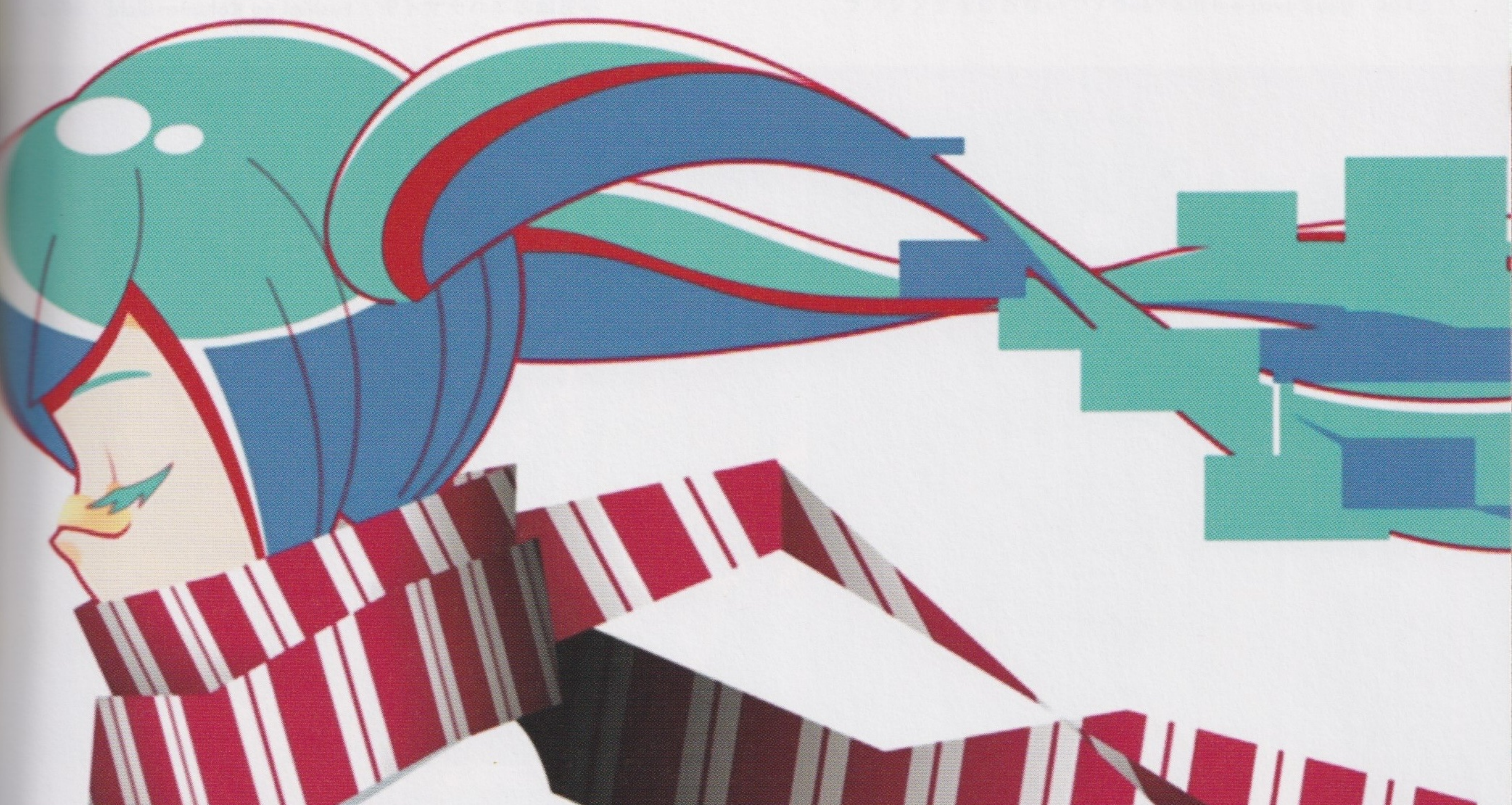



スケベニンゲン / Scheveningen　2012　Video Director : はんにゃ G　Hatsune Milk Character : ポッジーニ

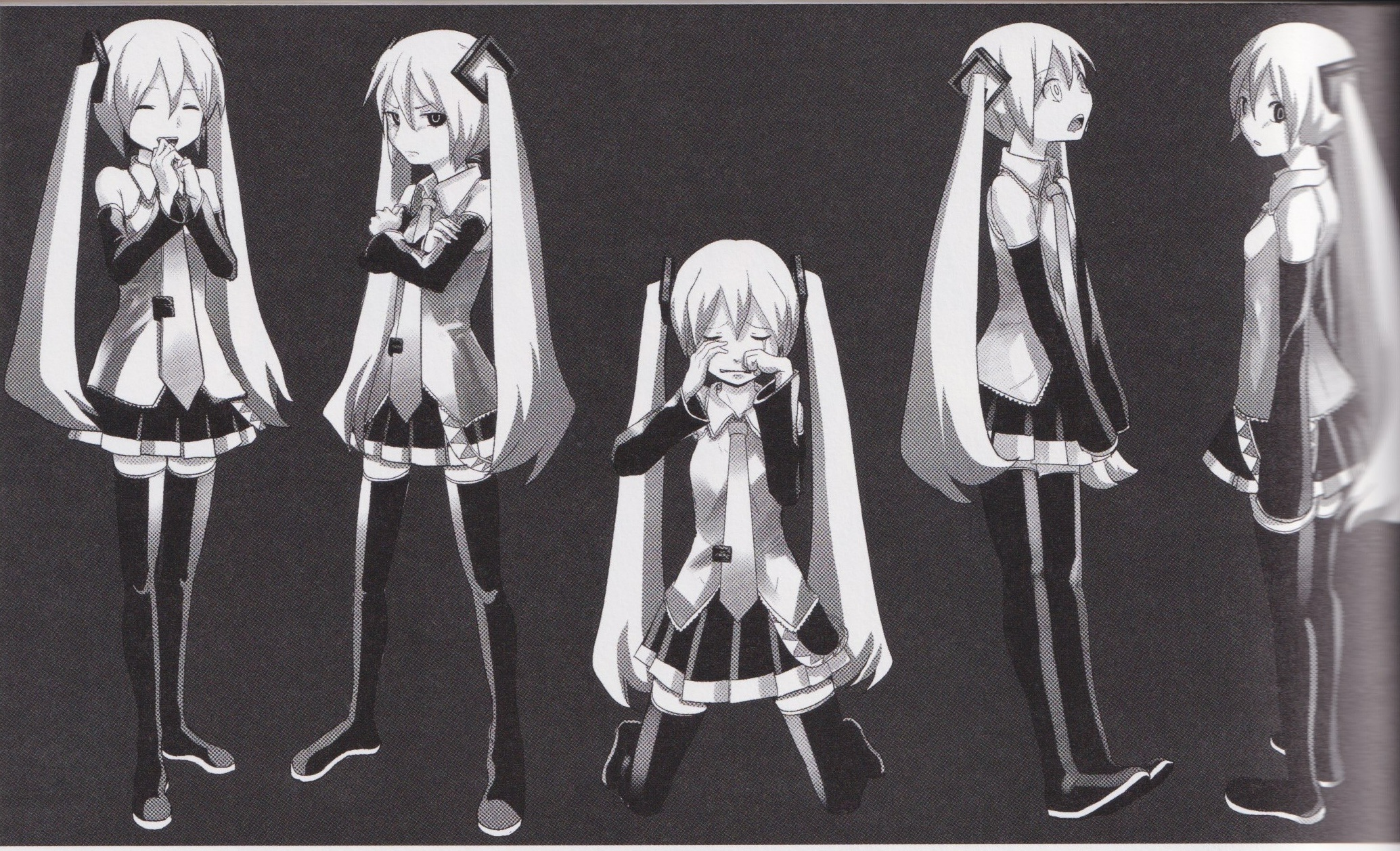




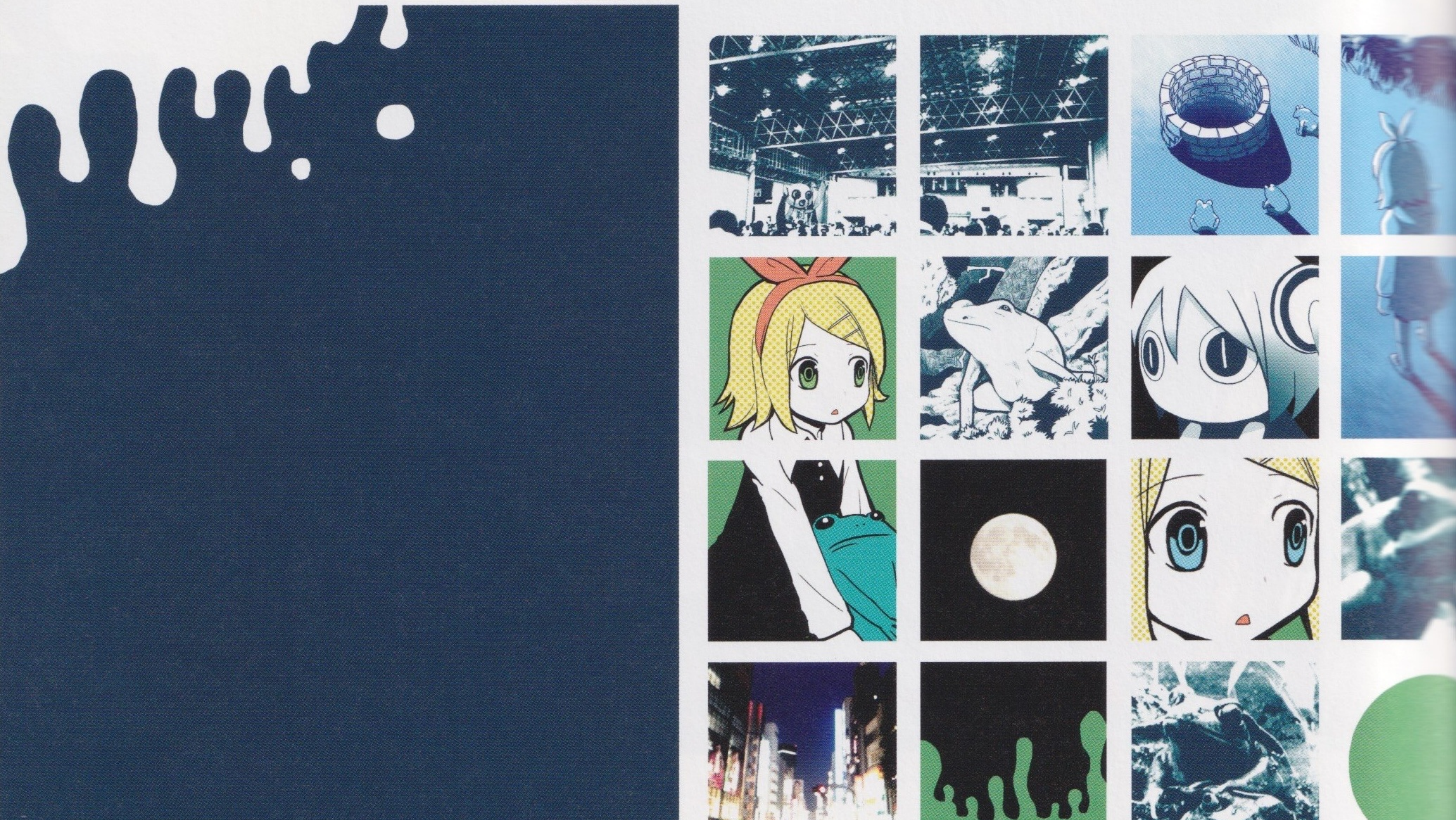




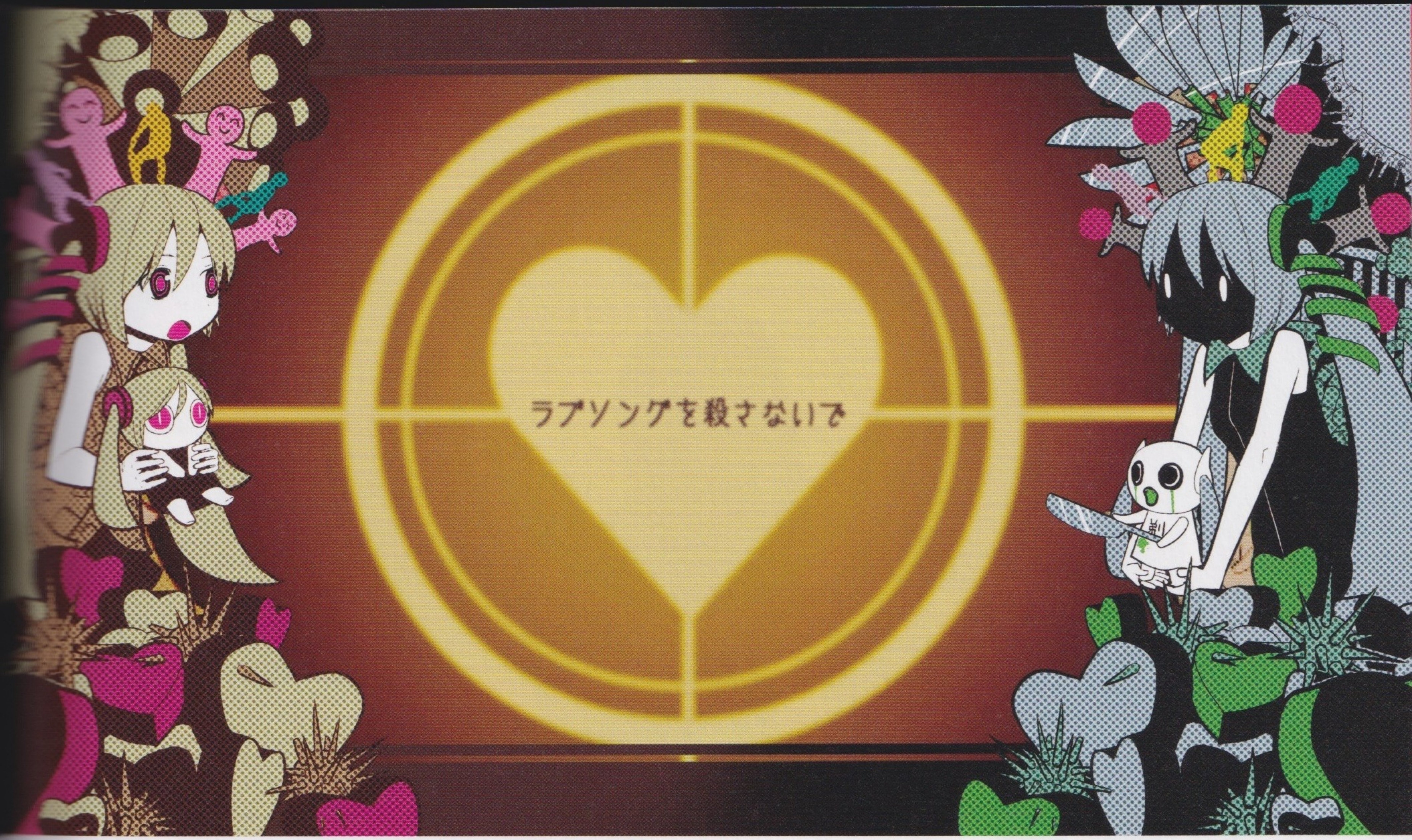
ありふれたせかいせいふく / Common World Domination　2012　Video Director : エジエレキ



不思議のコハナサイチ / Fushigi no Kohanasaichi 2012



かえるたちのうた / Kaeru-tachi no Uta 2012



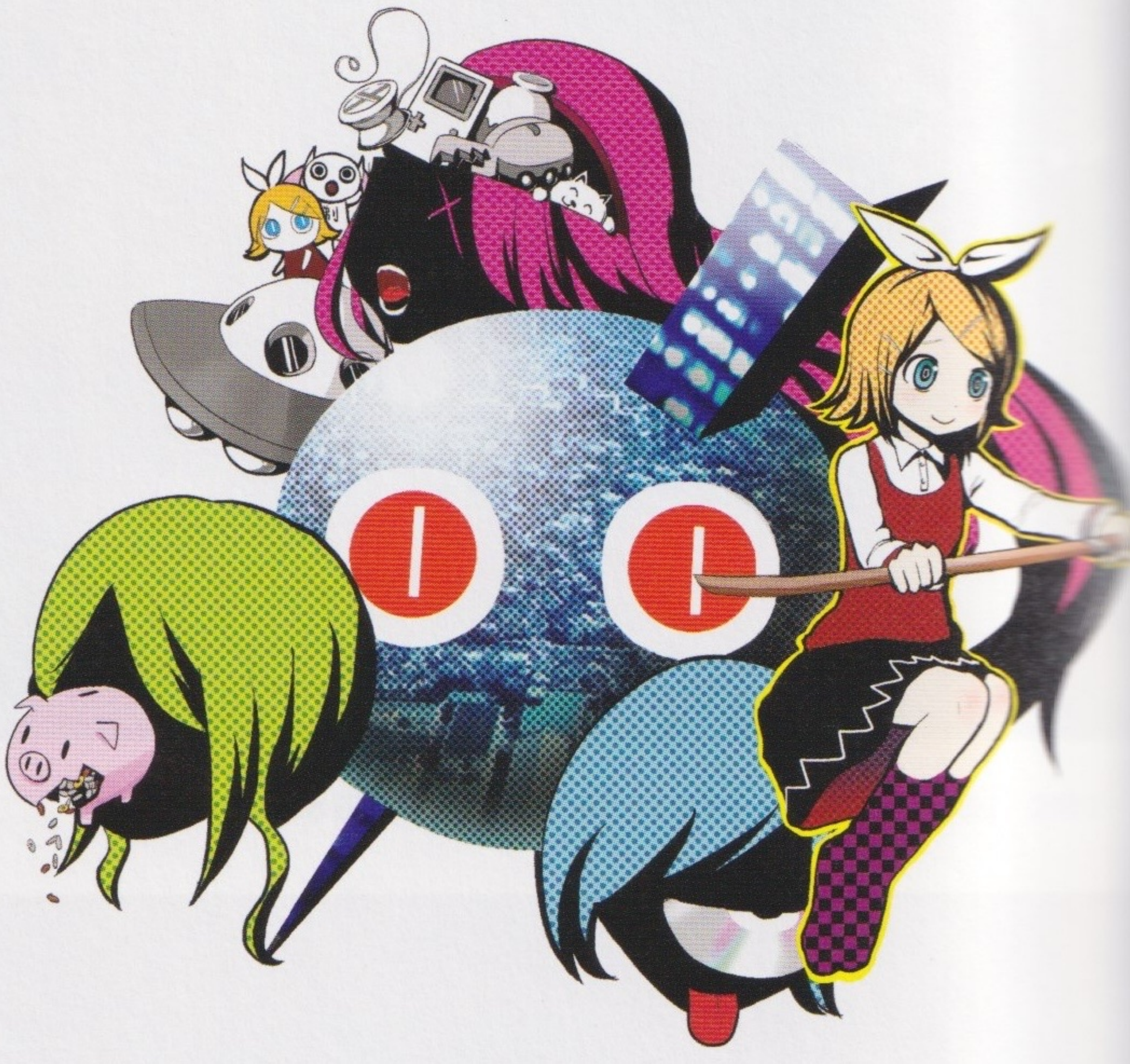

ラブソングを殺さないで / Don't Kill the Love Song　2012



化物宇宙 / Monster Universe　2011



Floating Shelter　2011



レアノ / RARE-NO　2012



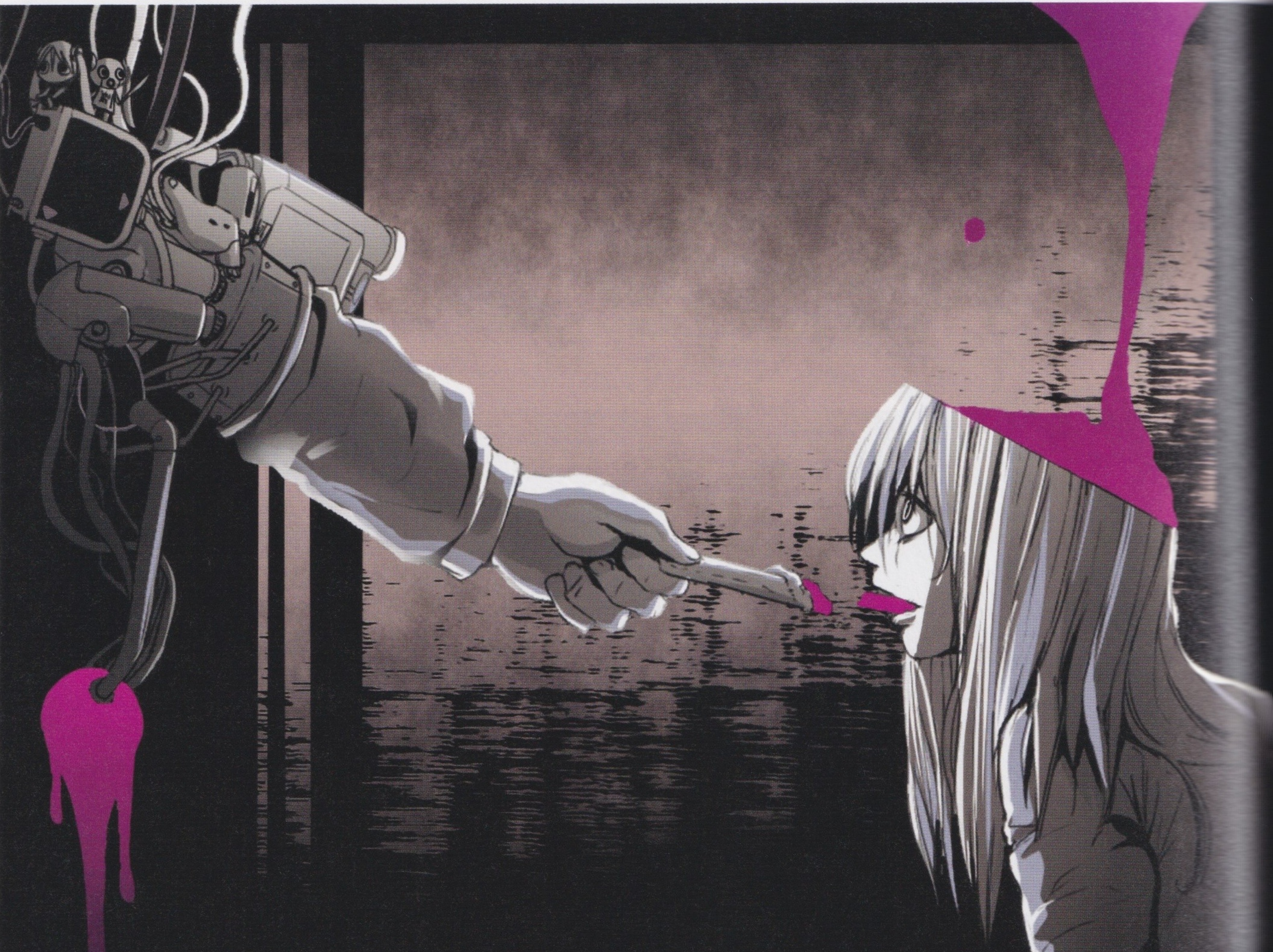
おもひでしゃばだば / OMOHIDE SHABADABA　2011



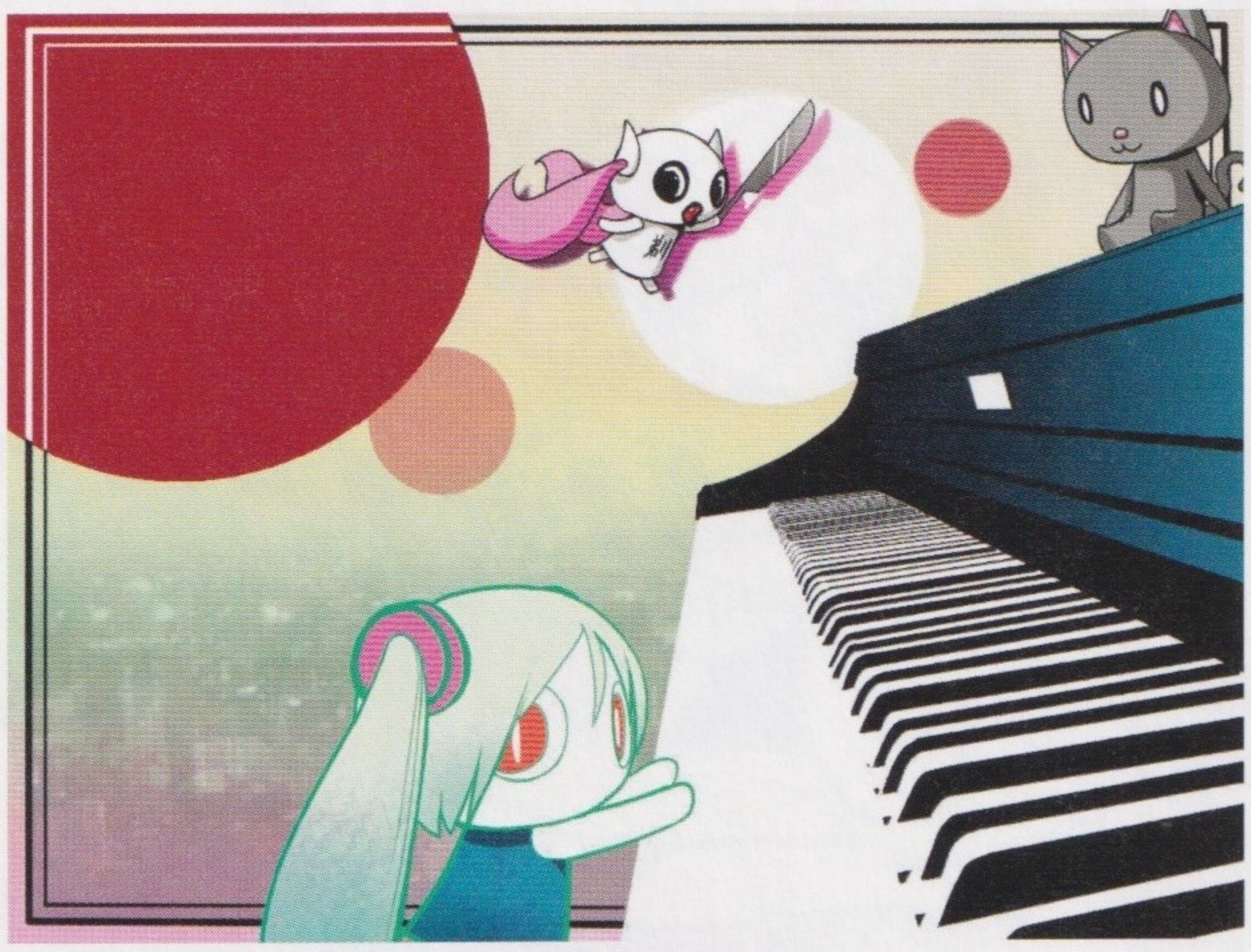
マッシュルームマザー / Mushroom Mother　2011

ユメネコ / Yumeneko　2011





腐れ外道とチョコレゐト / Kusare-gedou and Chocolate 2011



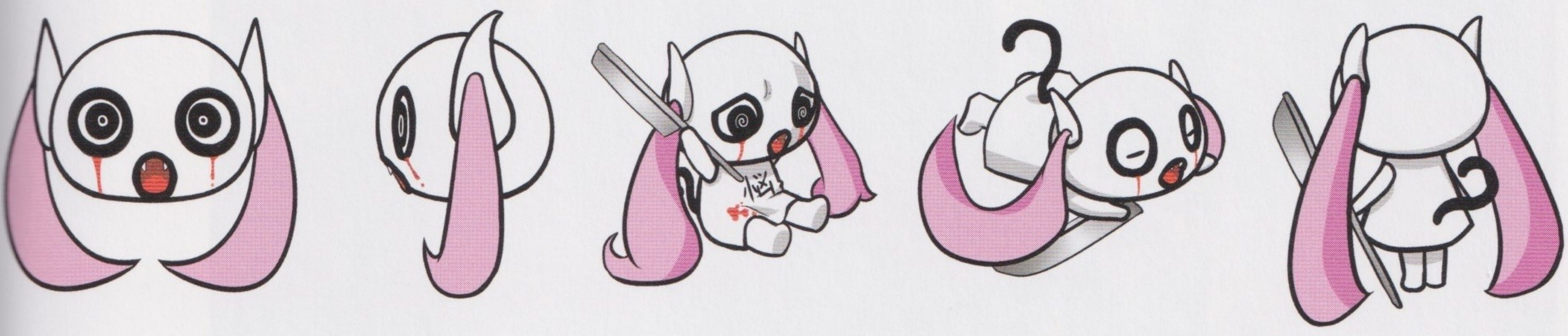
ことのら！ / KOTONORA!　2010

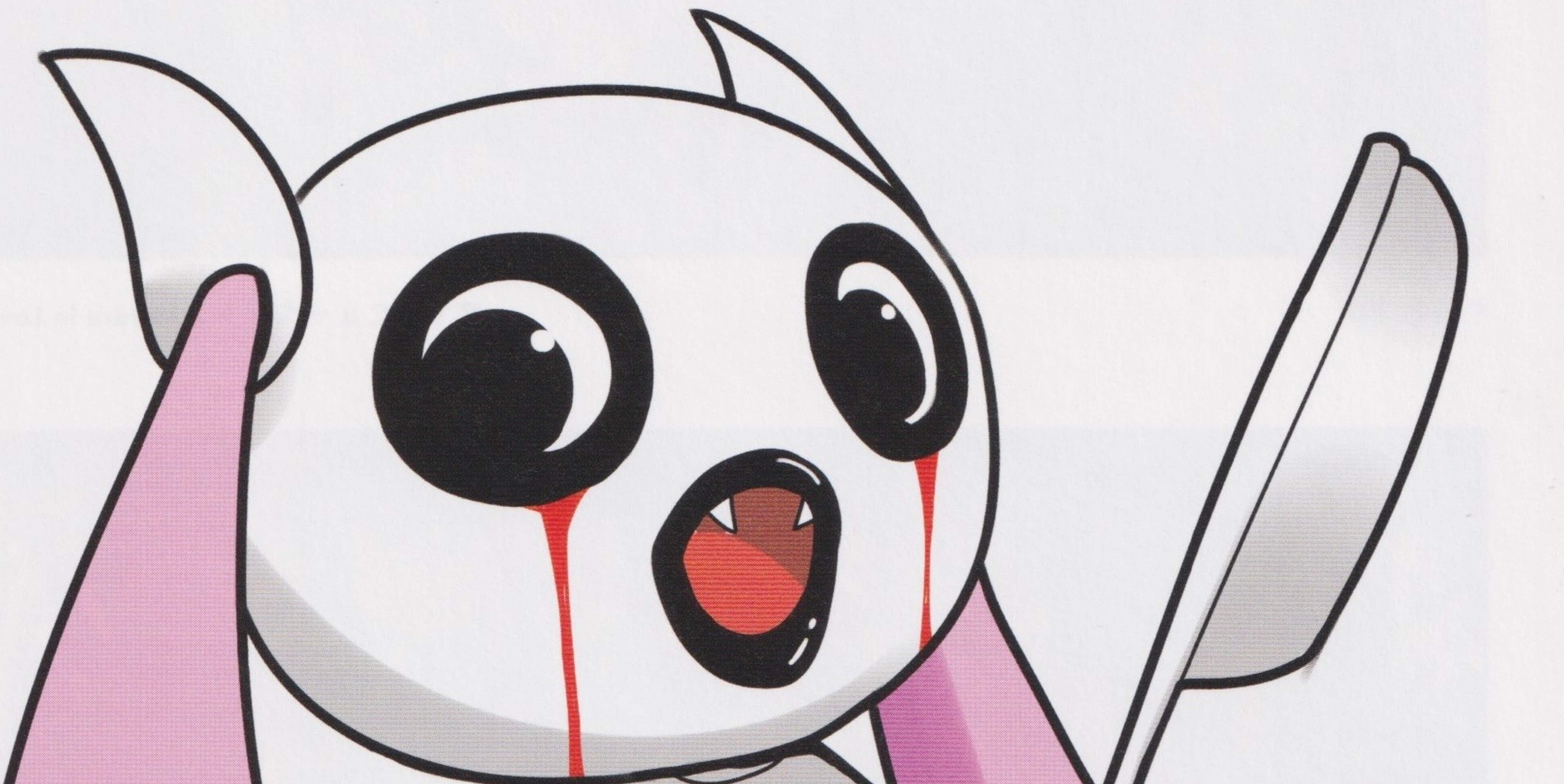



からっぽのまにまに / At the Mercy of Emptiness　2010



アイマイナ / Aimaina 2010





どうしてちゃんのテーマ / Doushite-chan's Theme　2010



恋するミュータント / Mutant in Love　2010



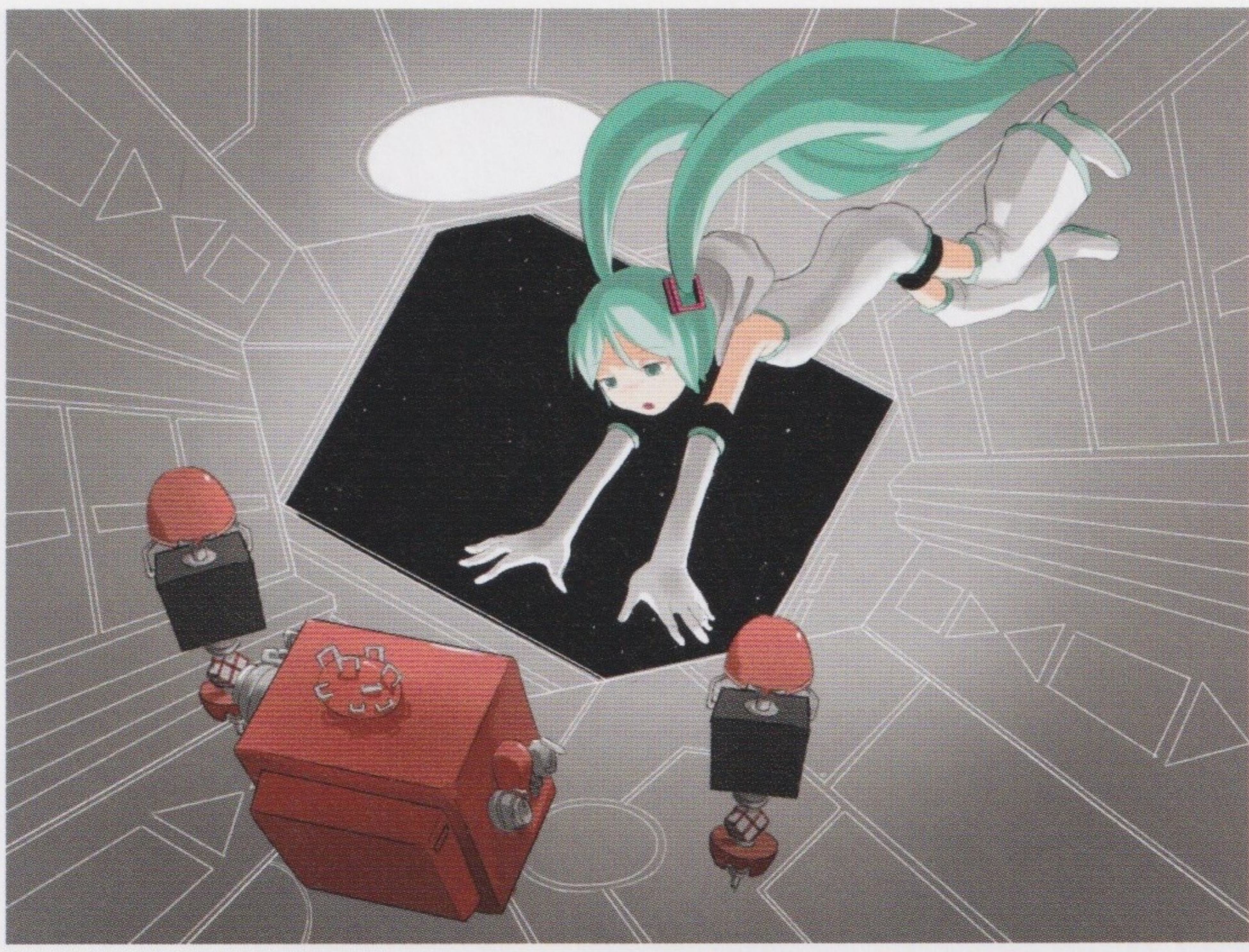
人間なんか大嫌い / I Just Hate People　2010　Illust : おにゅう



OZ　2010



はっぴーべりーはっぴー / Happy Very Happy　2010



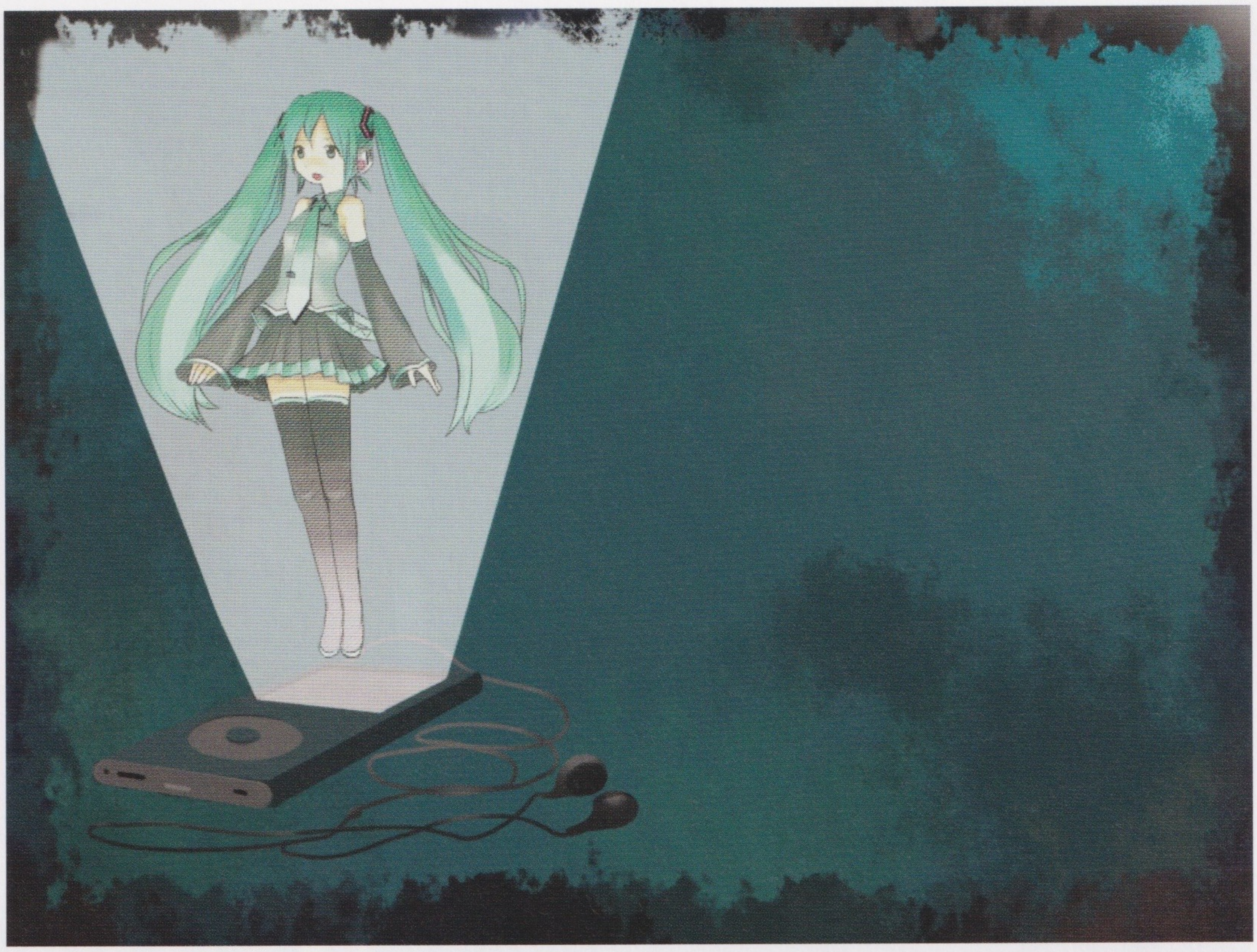
素晴らしい世界 / Wonderful World　2010



好き好き好き好き好き好き好き好き好き /
sukisukisukisukisukisukisukisukisuki　2010



Re：Continue　2010



ボーカロイドのうた / The Vocaloid Songs　2010



今年の終わりと始まりをノラ猫は見ていた / kotoshi no owari to hajimari wo noraneko ha miteita　2009



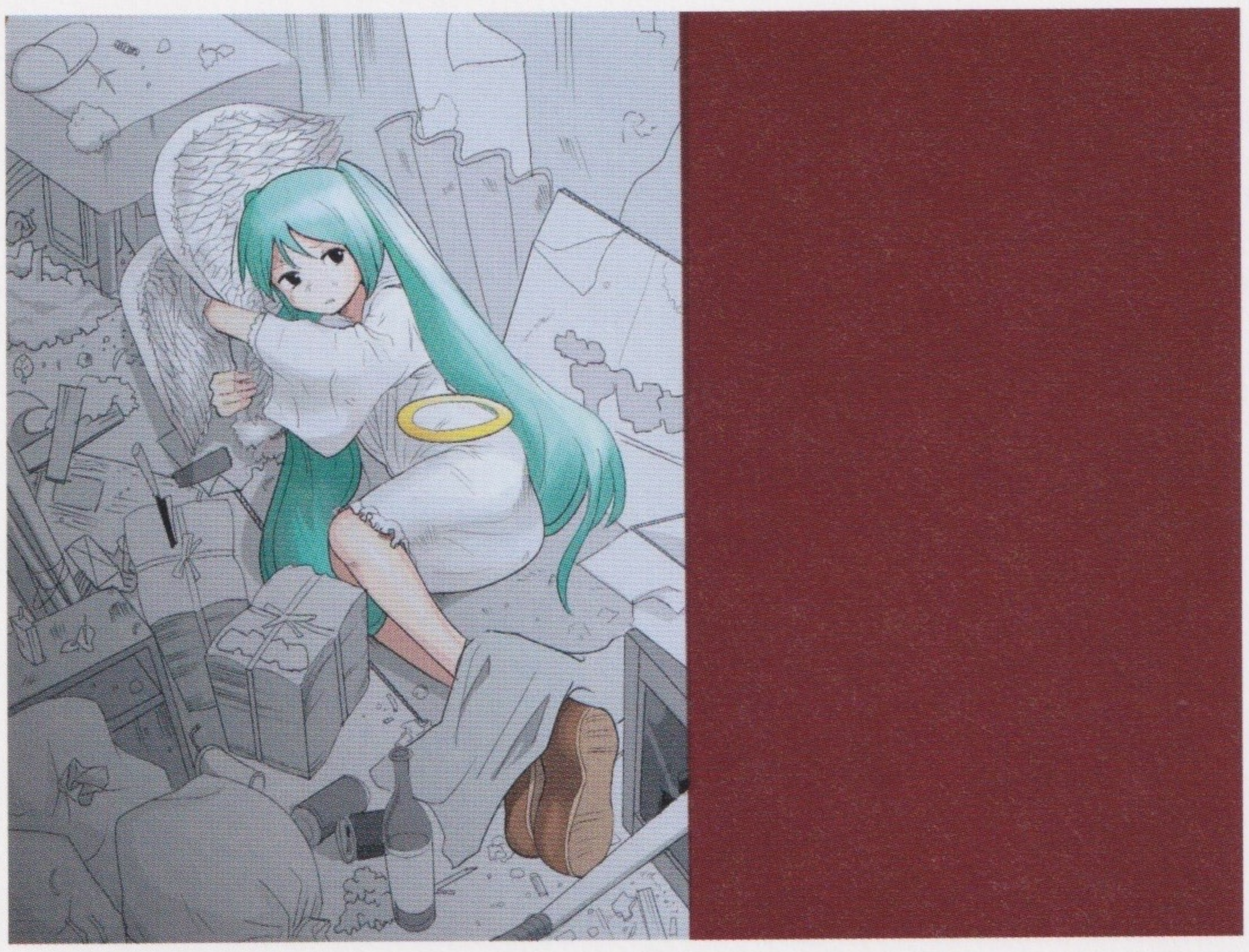
サイケデリックスマイル / Psychedelic Smile　2009



おもちゃロボット / omocha robot　2009



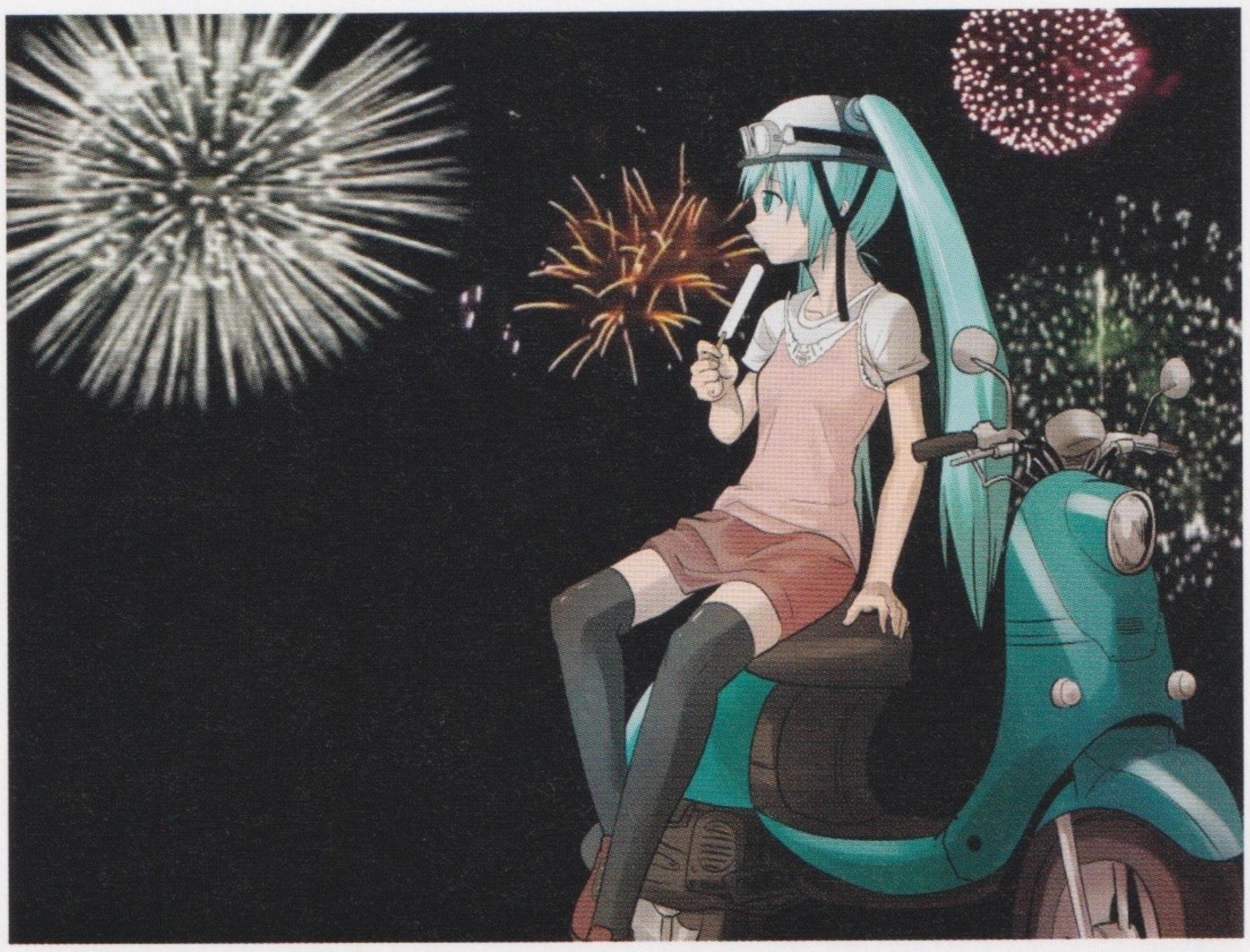

HANANOBI GIRL　2009



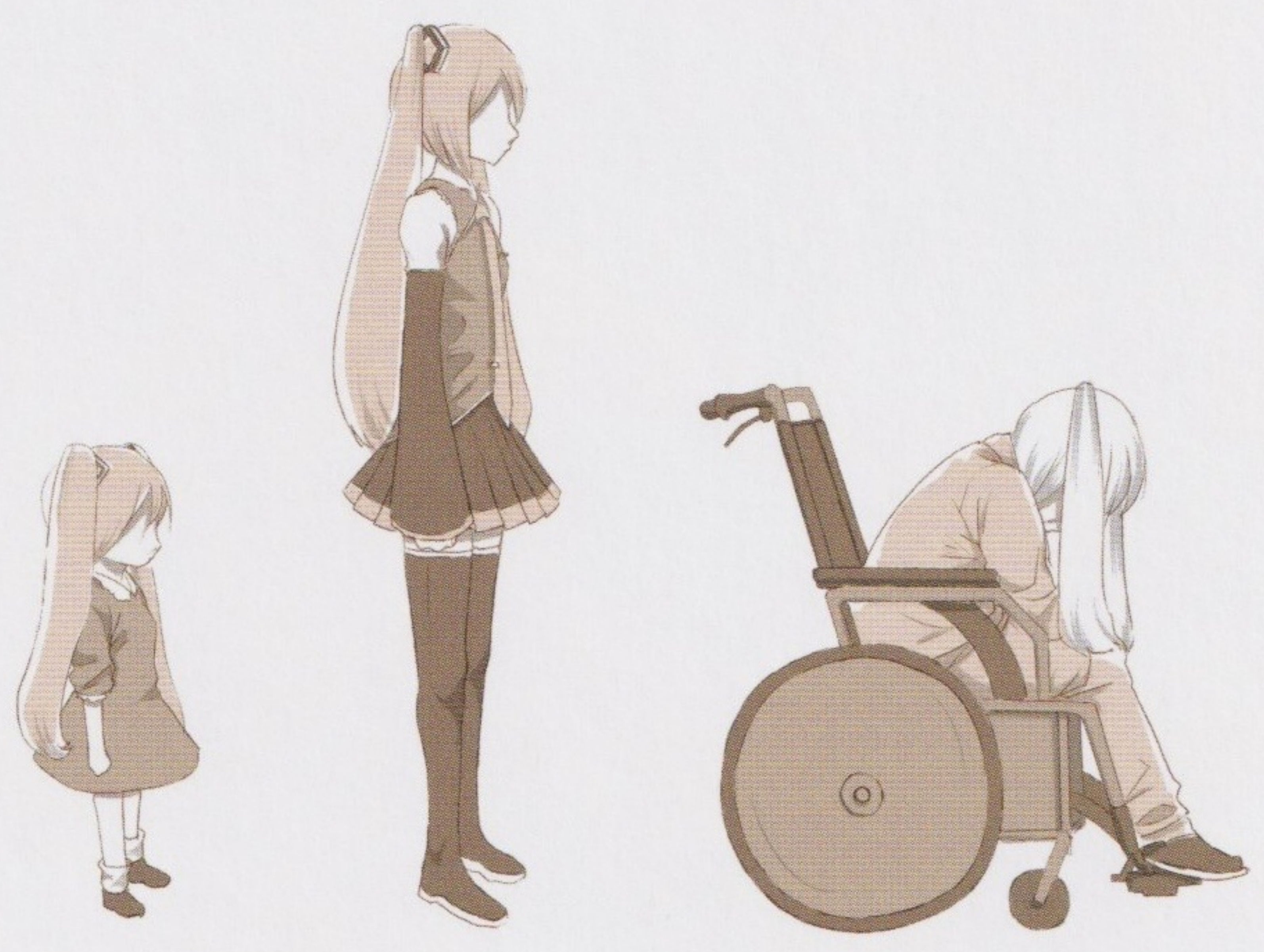
ポンコツ天使 / The Scraped Angel　2009



カケラ / kakera　2009



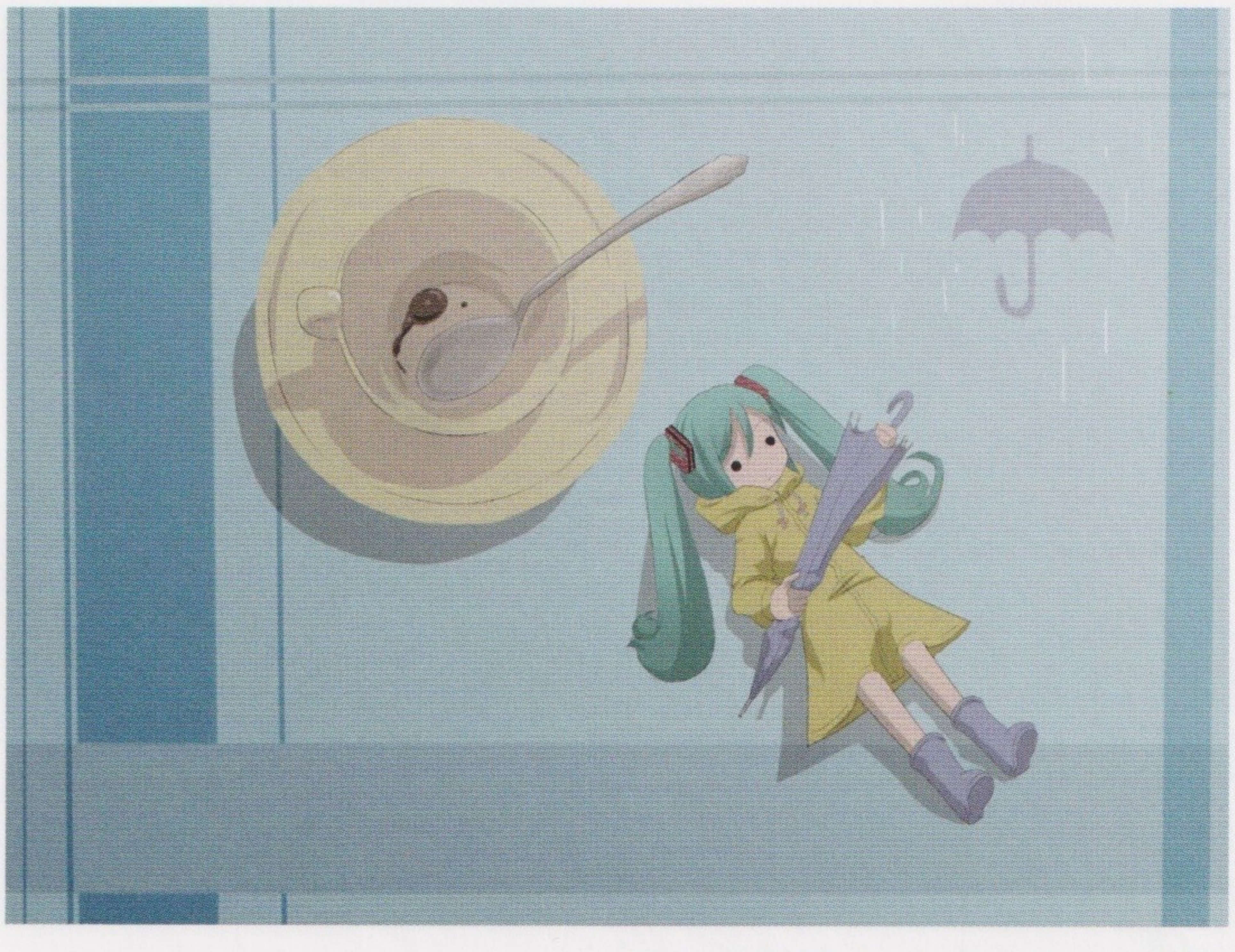
Fireworks　2009



Cocoa 2009



センセイニイッテヤロ / Tattle Tale 2009



あめのひ喫茶 / Rainy Day Café 2009



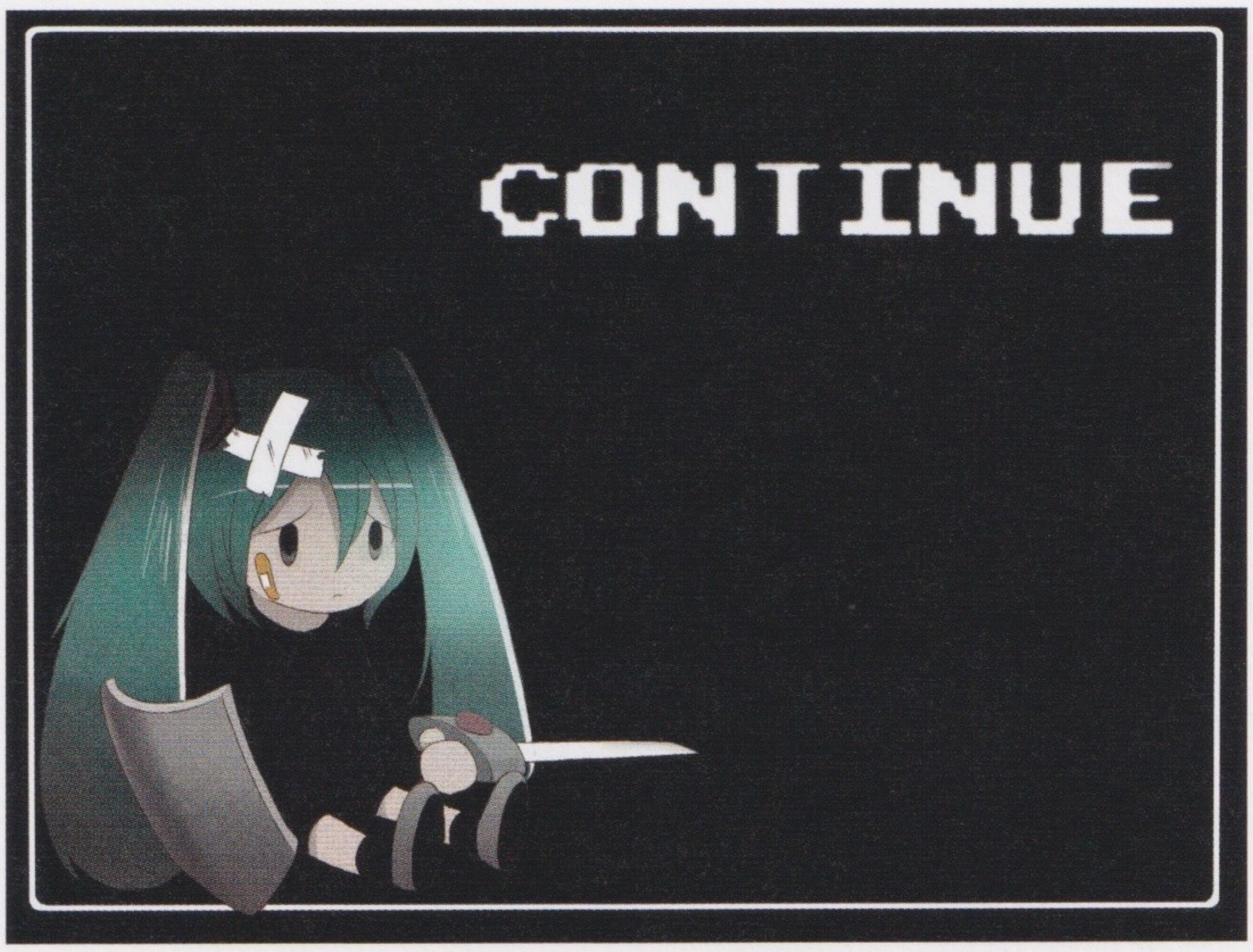
キラキラ☆カプセル / killer killer capsule　2009



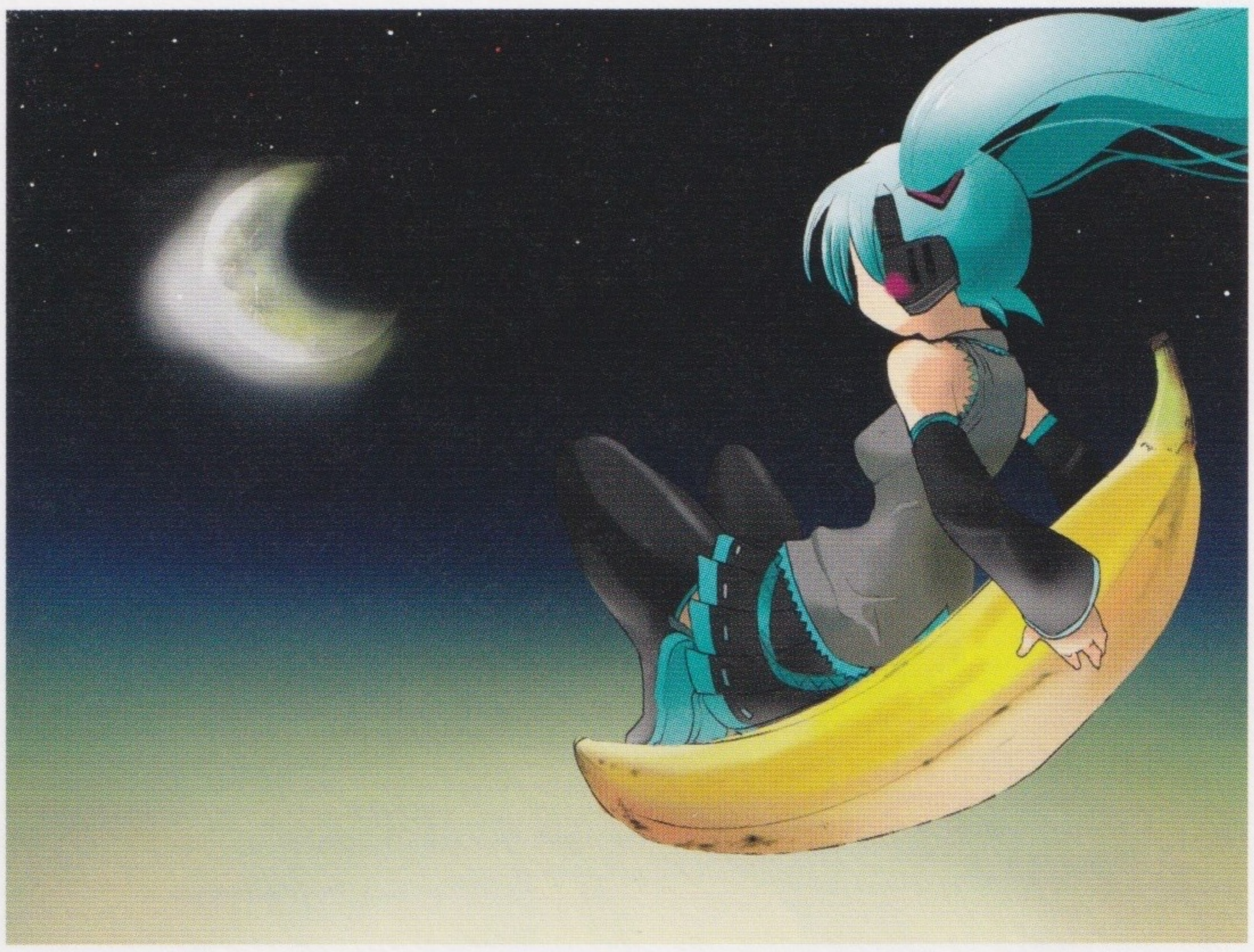
eight hundred　2009



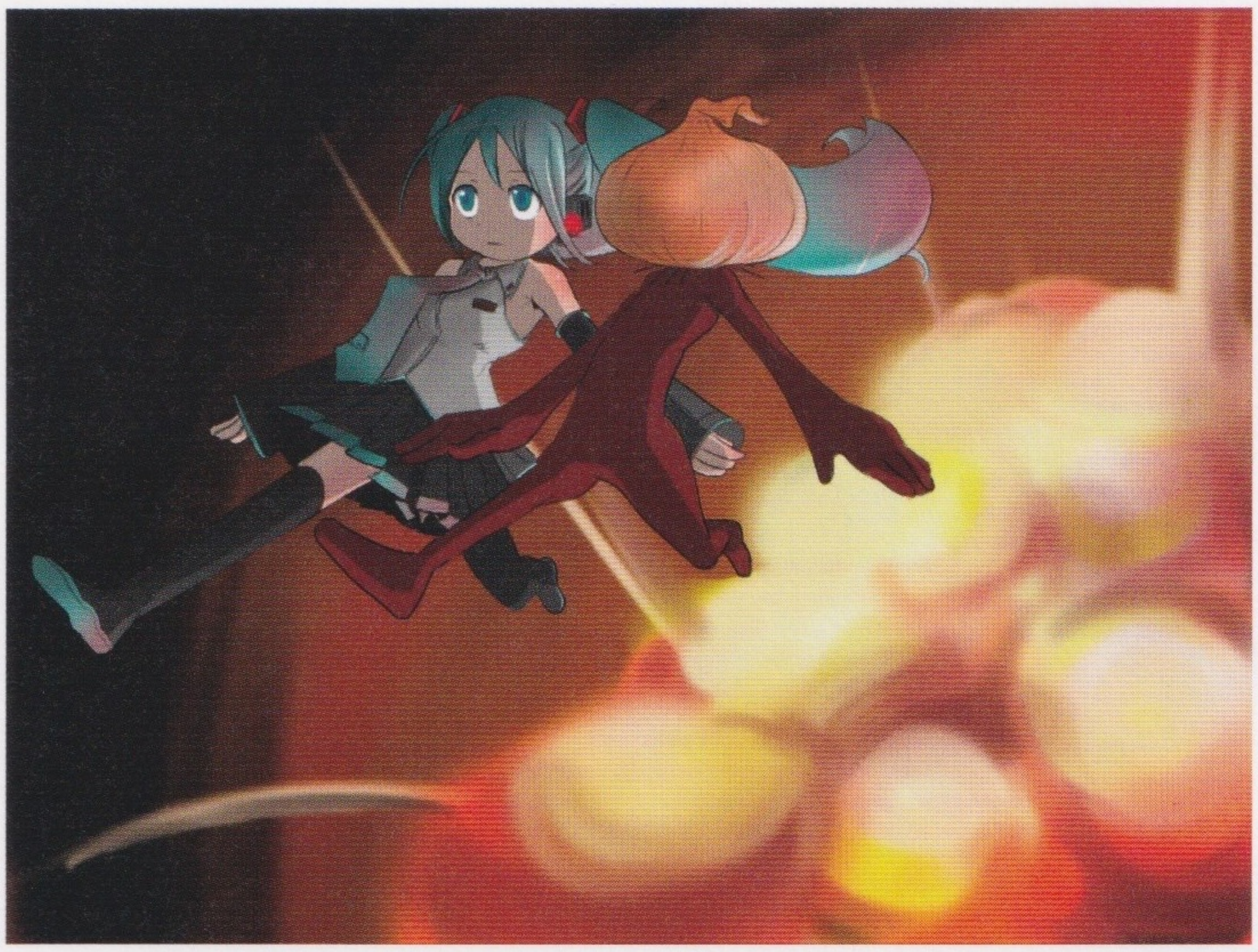
ネガポジ / negapoji　2009




CONTINUE 2009



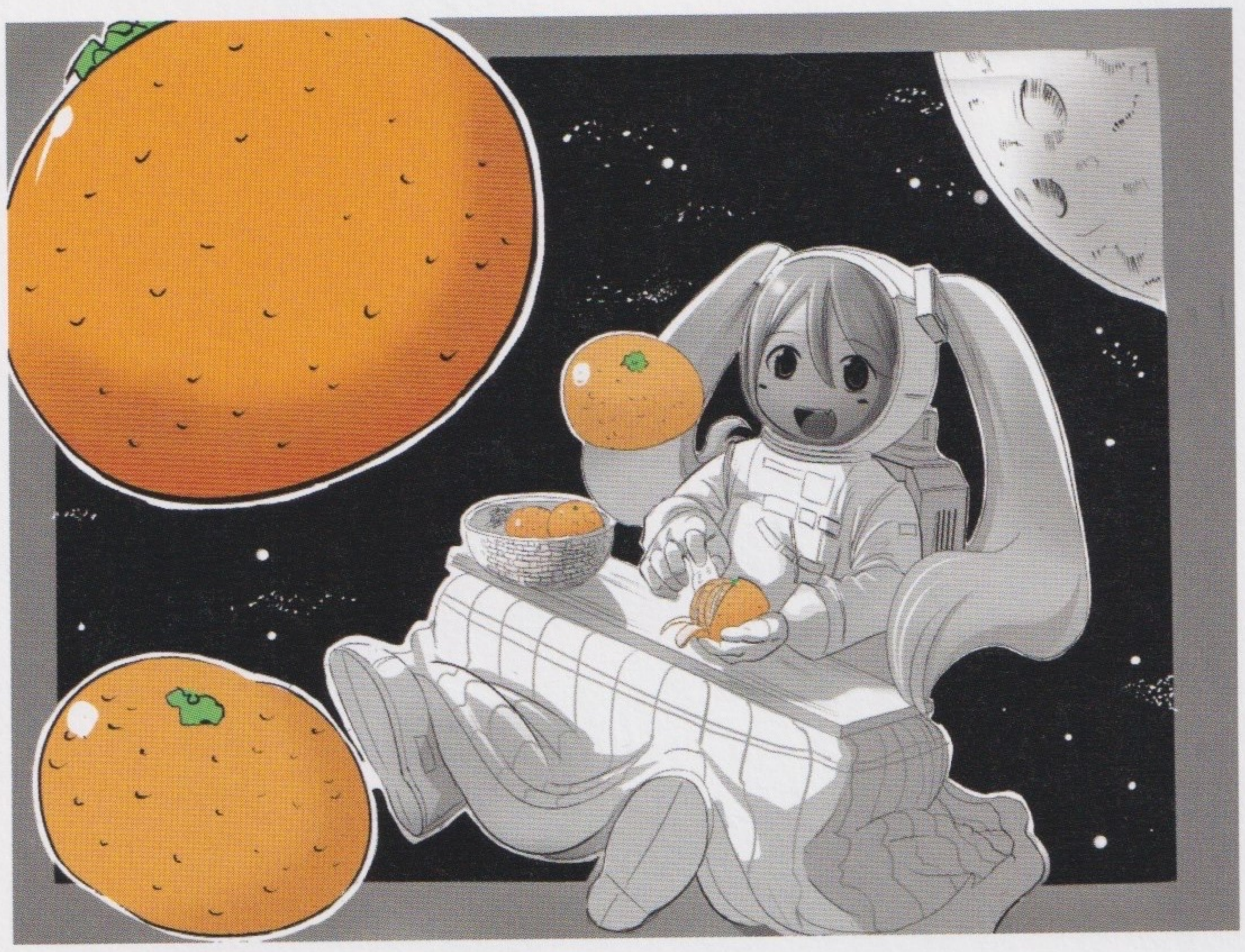
ゆめばなな / Dream Banana 2009



玉葱 / Onion 2009




ひとりの帰り道 / My Way Home Alone　2009



宇宙みかん / uchu mikan　2009




ハナウタ / hanauta 2009

本人解説

## P2-3『嘘ミーム』

2人の少女が登場しますが、カラフルな少女は何かに操られている「偽りの自分」、モノクロの少女は「本当の自分」のイメージで描きました。最終的にはモノクロの少女にも操り糸が付いていて、「そこにも本当の自分はいないんじゃないか？」と示唆する作りになっています。

モチーフは「ピノキオ」です。貴族のような首飾りを着けていたり、三角の帽子を被っているのはカルロ・コッローディの原書『ピノッキオの冒険』を、帽子部分のクジラはアニメに登場する巨大なマッコウクジラをイメージしたものです。

当時、「猫ミーム」が流行っていたので、背景は合成に使うグリーンバックをイメージした緑色、服のトーンは補色となる赤色、髪色は二面性があるということでツートーンカラーにしました。

嘘ごはん、嘘写真、嘘日記などは鉛筆タッチにしています。これは「自分で描いて消しゴムで消せるくらいの朧なこと」を表しています。

## P4-5『Aじゃないか』

「価値観の相違」をわかりやすく描きたいと思い作った曲です。SNSっていつ見てもずっと言い争っていますが、他人同士、意見が違うのは当然のこと。相手を曲げさせようとするのでも、お互いなあなあにしてしまうのでもなく、「対立していてもいいじゃないか、でもちょっとだけわかりあえるバランスがあるんじゃないか」と俯瞰で見てみることが大事だと僕は思っています。

実は当初、ミク単体の曲だったのですが、MVを作り始めたら「わかりにくいのでは？」と思い、急遽リンを入れることに。歌詞も改めてミクとリンに振り分けて、トラックも作り直し、再び絵を描くという工程を経て完成に至っています。

ビジュアルは幕末の民衆運動「ええじゃないか」をモチーフにしました。当時の様子を描いた絵などが残っていて、小判やお札など意匠が面白いんです。

キャラクターを描くときは大体衣装から考えるのですが、このときは成人式も近かったので、モコモコッとした装飾の着物にしました。アクセサリーは、ネガティブなミクは髪飾りの三角が下に向いていて、ポジティブなリンは上を向いています。一方で、価値観の違う2人だけどちょっとはわかりあえる要素もある、という願いを込めて、それぞれの瞳に「A」の文字を入れたり、ワンポイントでお互いの色を持っているようにしました。

## P6『甘噛みでおねがい』

当たり前ですがボーカロイドは噛まないので、そんなボーカロイドがずっと甘噛みしていたら面白いんじゃないかというアイデアから生まれた楽曲です。

曲がポップでかわいいので、僕のイラストだとこのニュアンスは表現できないと思い、寺田てらさんにイラストをお願いしました。甘噛みというテーマなので、「猫っぽいキャラクター」を依頼したら、寺田てらさんらしいかわいさとオシャレさのバランスが絶妙なデザインに仕上げてくださいました。カラーリングも素敵で、寺田てらさんとコラボをするたびに新たな発見があり、僕自身がイラストを描く上でも影響を受けています。

## P7『アポカリプスなう』

映画『地獄の黙示録』を観たときの気持ちを書こうと思ったのですが、うまくまとまらず、原題である『Apocalypse Now』という言葉だけが残り、それを膨らませて作った曲です。この時期のボカロシーンに刹那的で快楽主義的な曲が多かったので、この曲では「欲に引っ張られるだけの地獄のような世界で、普通であり続けることの狂気」についてカウンターの意味合いで書いています。海の上で純粋な少女が鎌を持って微笑んで立っている映像がフッと浮かんできました。

## P8-9『匿名M』

匿名のミクと匿名のインタビュアーであるARuFaさんの掛け合いで進む曲です。言葉に合わせてトラックのリズムを切り刻んで変えていったので、不思議な曲になりました。

使用しているイラストはすべて目隠し線ありきで描いています。ミクの瞳は本来緑色ですが、このミクはあくまで「ピノキオピーのミク」であり、他の人のミクではないことを明確にしたかったので、瞳は僕のミクのトレードマークであるピンク

色になっています。人の数だけそれぞれの初音ミク像があり、それぞれの正解があると思っているので。

ずっとネタっぽくテキストベースの映像で進む曲ですが、サビではがらりとシリアスにしたくて、荒涼とした世界にキャラが佇むシーンをあるしさんに3DCGで作っていただきました。「あのSFアニメのあそこ」とか「あのゲームの雰囲気」といった背景のイメージをお伝えして、あとはお任せしました。おかげで自分だけでは表現できない退廃的な世界観になりました。

## P10-11『キラースパイダー』

支配する側は愛を与えていると思っていても、相手は不幸になっているかもしれない。そんな支配する側の悲哀を描いています。

「支配」がテーマなので、蜘蛛をモチーフにした少女を描きました。衣装の元になっているのは、海外の喪服です。レース部分が蜘蛛の巣みたいだなと思い、そこからイメージを膨らませています。あまりゴシックなイラストを描いたことがなかったので、自分にとって新鮮でした。

この少女は対象を捕獲して自分で殺してしまっているのですが、そのことに気づかず喪服を着て喪に服している、というアンビバレントなニュアンスを込めています。

## P12『デビルじゃないもん』

DECO*27さんとのコラボ曲です。最初にコード進行とBPMだけ決めて、お互いワンコーラスずつ作ったものを持ち寄ってくっつけたら見事に合わさってこの曲ができました。イラストは「どちらかが完全に悪」なのはどうだろうということで、「白悪魔と黒天使」に。僕が白悪魔担当です。白い衣装のテカッとした素材感を表すのに苦労しました。

## P13『余命2：30』

ボカロ曲の消費のサイクルが速くなり、2分30秒程度の曲が増えていたので、2分30秒であることに意味のある曲を書こうと思いました。人の一生を2分30秒で描いているのですが、いわゆる「余命もの」へのアンチテーゼでもあります。余命もので感動するのって逆に残酷なんじゃないかと思って。ビジュアルはあえてそれっぽいポスターを意識して、ミクに涙を流させています。手前の手とミクの手が重なっていますが、間にあるのは鏡ではなくガラスで、あくまでコンテンツである「向こう側」と「こちら側」とに隔たりがあることを示唆しています。

## P14-15『転生林檎』

曲の完成後、MVをどうしようかと悩んだのですが、「この曲の映像化は僕の手に負えない」と感じました。歌詞の中で主人公が次々と偉人に転生しては失敗するのですが、このスケール感は幅広い表現のアニメーションを作れる方じゃないと具現化できないと思い、全幅の信頼を寄せているえいりな刃物さんにお任せすることにしました。シリアスな曲である分、MVにはちょっとしたユーモアも入れたいと思っていたので、その点でもぴったりかと思いました。

ジャージ風の衣装は、当時SNSで流行していた服装を参考にデザインされたそうです。個人的に、主人公のユニセックスな感じが気に入っています。

救世主が出てくるシーンでは『ノンブレス・オブリージュ』がオマージュされていたり、「異世界でも　現実はシャバかったよ」の箇所では過去の曲のキャラクター達が登場したりします。セルフオマージュは自分では恥ずかしくてなかなかできないのですが、えいりな刃物さんはこういった小ネタを入れてくださるので、自分でもMVを観ていて楽しかったです。

## P16-17『魔法少女とチョコレゐト』

『腐れ外道とチョコレゐト』を発表して10年、SNSの台頭で「ゴシップ」のあり方も変わったため、2022年版『腐れ外道とチョコレゐト』を書きたいと思いました。『〇〇とチョコレゐト』に入るいろんな候補を考えましたが、最終的に『魔法少女とチョコレゐト』というタイトルになりました。

魔法少女はみんなのために戦っているのに、清廉潔白さを求められ、「本当は〇〇なんでしょ？」などと匿名の人たちに揚げ足を取られてしまう。『腐れ外道とチョコレゐト』では「ゴシップを楽しんでいる側」を描きましたが、今回は「ゴシップの対象になっている側」を描きたかったので、メディアに囲まれマイクを向けられている魔法少女を主人公にしました。

デザインは黒とピンクの2色をベースにしていて、ピンク色は『腐れ外道とチョコレゐト』の

チョコの色を踏襲しています。ポージングは口元のチョコを拭いながら世間に立ち向かうイメージです。

スカートにはアイマイナの目の意匠を入れたりして遊んでいます。ステッキは、僕がデスクに置いているお気に入りのハシビロコウのぬいぐるみを見ながら描きました。頭の部分、翼や脚などハシビロコウの要素を入れてデザインしましたが、全く原形を留めていません。

**P18-19『コスモスパイス』**

「カップヌードル×プロジェクトセカイ」のコラボ企画に参加させていただき、制作した曲です。カップヌードルの定番9種をテーマに5人のクリエイターが曲を作るという企画で、僕は「カレー」と「欧風チーズカレー」を担当しました。個人的に、カレーをテーマにした曲は「一歩間違えたらスベる！」と考えていたので、いっそシリアスなバラードにしようかと迷走するくらい悩みました。

結果、カレーの代名詞であるスパイスを軸に、いろいろな価値観がスパイスとなって混じり合い、最終的に宇宙に広がって調和されていくという平和的な絵が浮かび、「カレー×平和路線」ならいけそう、と方向が定まりました。

安直ですが、カレー＝黄色ということでボーカルはリンとレンをメインにしています。インドスケールを使い転調も多くしたことで、僕の中では珍しい展開の曲になった気がします。

イラストは僕が描き、動画は野良いぬさんにお願いしました。キャラクターの衣装をインドで着られている服のアレンジにしたり、背景にカップヌードルの意匠を使ったり、テーマに合わせたモチーフをたくさん入れました。

個人的にはインド風の「ミクダヨー」を描けたのが嬉しいです。衣装の中心にあるカレーマークがライスではなく麺になっているのにもご注目ください。

**P20-21『神っぽいな』**

曲を投稿した数か月後に徐々に火がつき、たくさんの人にカバーされたり、いろんな形で二次創作がされたりと、予想外の広がりをみせて結果的に代表曲の一つになりました。

キャラクターは「『神っぽいな』というタイトルならシスターだろう」ということで、シスターっぽい格好をしたやさぐれた女の子のデザインになっています。

衣装やアクセサリーも、「っぽい」ものを意識しています。シスターと言いつつミニスカートだったり、頭についている天使の輪っかがワイヤーで繋がっているハリボテだったり、利き腕である右腕に包帯が巻かれていたり。

イラストの画風やMVのテロップの出し方など、ビジュアル面では当時のボカロMVっぽさをあえて取り入れたので「曲調も流行りに寄せている」と誤解されることもありましたが、楽曲そのものは当時の流行りではないコード進行を使ったり、突然展開をダウンテンポにしてみたりと、全く違うアプローチで制作しました。

**P22-23『ねぇねぇねぇ。』**

アルバム『ラヴ』の制作中、かわいくてポップな曲も入れたいと思い作ったのが『ねぇねぇねぇ。』です。当初はただただかわいさを追求していたはずが、だんだん不穏な曲になっていきました。MV内でリンとミクが糸電話で会話していますが、お互いが一方的に話していて、相手の話は聞いていません。2人の間には誰かが存在していて、その誰かを取り合っているという裏テーマもあります。

イラスト担当の寺田てらさんは「かわいくて不穏」という相反する世界観をスタイリッシュに表現するのが得意な方なので、ぴったりなのではないかと思い、この曲ではじめて依頼させていただきました。

イラストは僕がラフを描いて指定させていただいたのですが、「よかったらこれも使ってください」と追加のイラストもたくさん用意してくださって、MVを制作する際にとても助かりました。特にお気に入りなのは「アローン　アローン」でどうしてちゃんが溶けるイラストです。

**P24-25『ノンブレス・オブリージュ』**

コロナ禍の息苦しさと、ボーカロイドは息継ぎをしないという特性、それに「ノブレス・オブリージュ」（高い社会的地位には義務が伴う）という言葉の3つが結びついて生まれました。SNSではここ数年ずっと、何を言っても誰かに叩かれる、それでもあらゆることに物を言い続けないといけないような息苦しさがあると感じていて。「君と防空壕で呼吸する」というラスト一節は、ネットの世界だけがすべてじゃないという思いを込めています。

曲調に関しては、アルバム『ラヴ』の頃から、

音数を減らしてその分一つ一つの音に説得力を持たせたいというモードだったので、4コードだけで進行させています。流行りのコードを使ってはいるけど、全然流行りっぽくない仕上がりを目指しました。

『転生林檎』と同じくスケールが大きい曲なので、MVは信頼するえいりな刃物さんにお任せしました。曲を聴いてイメージを膨らませ、誰かをスケープゴートにして盛り上がっていくSNSの様子を物語のように展開させてくださったと思います。

この曲を聴いてもらえなかったらショックだな、というぐらい良いものができた実感があったので、たくさんの反響をいただき、まだまだ自分らしい活動を続けられるな、と嬉しく思いました。

## P26『リアルにぶっとばす』

スマホゲーム『#コンパス 戦闘摂理解析システム』に登場する「ゲームバズーカガール」のテーマソングとして書き下ろしたものです。イラストはゲームバズーカガールのコスプレをしているデフォルメのミク。ところ構わずバズーカをぶっ放すキャラなので、「あらゆるしがらみやズルズル続いてしまった関係性をぶっとばして、新しいことを始めよう」という内容の歌詞にしました。

MVはアメコミ風で、動画をお願いした野良いぬさんがネームを描いてくださり、それに応じて僕が絵を描きました。普段の自分が描かない表情を描けて楽しかったです。

## P27『アンテナ』

引っ越しして、生活も変化して、これからどうなっていくかな、と感じていたときのことを歌詞にしました。歌はほぼ僕が歌っています。自分のボーカルとミクを組み合わせると面白いことができるなと手応えを感じた曲です。イラストはアンテナの擬人化で、「今は何も知らないけど、これからアンテナを張って吸収していく」というピュアなキャラクターです。

## P27『404』

「すとぷり」のメンバーころんさんへの提供曲。珍しく男の子を描きました。冨樫義博さんの『レベルE』に出てきた悲しい宇宙人のエピソードが好きだったので土台になっています。「宇宙人の価値観では普通だけど、地球人からすると受け入れられない」イメージで、手が鋭利な爪になっていて、愛情表現をするにしても傷つけてしまうデザインにしました。

## P28-29『ラヴィット』

ミーハーな愛の空虚さをテーマに、えいりな刃物さんにMVをお願いしました。キャラクターはウサギをモチーフに「地雷系」の雰囲気にしてもらいました。途中で大きなアイマイナが2体出てくるのですが、これは「Blank Room Soup」という動画がモチーフになっているそうです。えいりな刃物さんは1個の映像に対して文脈をたくさん用意される方で、僕の過去曲のカラーを使ってくれていたりと小ネタがいっぱい入っています。途中で一瞬出てくる「盛って」うちわをライブに持ってきてくれるファンの方もいたりします。

## P30『シークレットひみつ』

アルバム『ラヴ』から『META』にかけて、自分以外の視点から歌詞を書いてみようという波があり、そのときにできた曲です。僕が女子目線の歌詞を書くのも面白いのではと、想像を巡らせて書きました。

イラストもオシャレにしようと頑張ったんですが、今見直してみるともうちょっとかわいくできた気がします。服装や全体のトーンは当時のトレンドカラーを意識して、ネオンっぽいピンクや青を使っています。キャラクターを描くときに一番参考にしたのは『どうぶつの森』に出てくる「みすず」。ゆめかわな雰囲気のクマの女の子です。

## P31『愛されなくても君がいる』

「それぞれの場所にそれぞれのミクがいる」をテーマにした王道アニメーションMVです。絵を描く人、曲を作る人、コスプレする人……それぞれのミクがいる。「生きていないからこそ、みんなで象る」ことがミクのあり方だと僕は思っています。

映像の中で公式デザインのミクが割れて、中から出てくるのは「ピノキオピーのミク」という設定です。僕のミクは瞳がピンク色なのでそれを押さえつつ、ピンバッジをアイマイナの目にしたり、髪飾りをアイマイナのように丸いものにしたり、ミクとアイマイナの中間のようなイメージでデザインしました。

## P32『セカイはまだ始まってすらいない』

スマホゲーム『プロジェクトセカイ カラフルステージ！ feat. 初音ミク』のユニット「ワンダーランズ×ショウタイム」に提供した楽曲のセルフカバーです。「さびれたステージの復活」というユニットの使命と、当時、僕が感じていた「ボカロ界がもっと盛り上がったらいいのに」という気持ちを重ねています。2019年頃は、新しい作り手が出てきたにもかかわらずシーンが落ち着いていてもったいないなと感じていました。

MVは山口駿さんにお任せです。ハンドスピナーなど流行った物や廃れた物のニュアンスをうまく取り込んでくれました。3Dなのに粘土っぽい、子ども心が感じられるタッチも素敵です。

## P33『10年後のボーカロイドのうた』

2010年に発表した『ボーカロイドのうた』をベスト盤に収録することになり、歌詞とアレンジ、タイトルも変えてリメイクしたものです。歌詞は特にラストをはっきり変えています。イラストは「10年経ってどうよ？」と問いかけてくるミクで、カラフルなモチーフが敷かれているのは、10年の間に生まれたありとあらゆる曲たちのイメージです。

## P34-35『アルティメットセンパイ』

『アルティメットセンパイ』というタイトルから連想して、海外の格闘家のようなデザインのミクを描きました。強がりながらも立ち向かっていこうとしているイメージで、髪は黄色い虎柄にして、きっとこういう人は自分を律せないだろうから寝癖でボサボサ、野性味溢れる感じになっています。

MVのタイトルは、白背景に集中線でバーンと出てくるイメージが浮かび、筆文字がいいだろうということでiPadのアプリを使って自分で描きました。カスレがなかなかいい感じに出ず何テイクも描いています。

MVには一瞬しか出ませんが、ハンバーガーのイラストはかなりしっかり描き込みました。一瞬しか出さないものに喜びを見出していた時期でもあります（笑）。「無意味に買ってる　路上で売ってる詩を」のところで、一瞬ですが、「歩くと疲れる　そうなんだよなぁ」という「みつを」的な詩が出てくるのも無意味で気に入っています。

## P36『玉葱＋』

活動初期の楽曲をリアレンジしたミニアルバム『P+』収録曲。元の楽曲『玉葱』のイラストも背景が爆発していたのでそれを踏襲しつつ、カラフルにしました。ミクのTシャツの柄は『P+』のジャケットそのままで、全体のカラーリングもジャケットを意識しています。目の下のマークは玉葱でもあり涙でもあります。

## P36『ぜろ』

動画サイトを筆頭に、世の中数字がすべてという風潮に対し、「数字がよかろうが悪かろうが面白いものは面白い。自分のフィルターを通してみたら数字って当てにならない」という思いを歌にしました。MVは84yenさん。主人公は普通の会社員ですが、ロケットが出てきたりワクワクする雰囲気で、僕の楽曲の遊び心の部分を拾っていただいたのではないかと思っています。

## P37『恋の恋による恋のための恋』

いろんな愛の形を描くアルバム『ラヴ』を作るとき、今までやったことがない表現で愛の曲を書くには、と考え、必要以上に「恋」って言ってみたらどうかとこのタイトルが浮かびました。歌詞にも映像にも出てくる彼岸花の花言葉は「悲しき思い出」。自分の幼稚な恋の記憶をまっすぐにラブソングとして書いています。自分の記憶を私小説的に書くというやり方はやったことがなかったので、挑戦してみました。

ミクが制服姿なのは未熟さの象徴で、銃を持っているのは『セーラー服と機関銃』からの連想。過去の思い出を蜂の巣にしてくれ、という自暴自棄感の現れでもあります。

## P38-39『内臓ありますか』

この曲を書く前に、信じられないくらい悪い人の話を聞きました。その人はなんの罰も受けずに普通に暮らしているらしく、因果応報もないのかと思いました。

フィクションの世界では、悪いやつが悪いままで終わるものは少ないと思いますが、現実はそうでもない。悪だからといって裁かれるわけでもないし、善だからといって報われるわけでもない。MVの冒頭で陰陽マークが出てくるのは、そういった「白黒はっきりつかないこと」の象徴で、僕の

表現の根幹になっているテーマでもあります。

キャラクターデザインはストレートに「内臓」のイメージで、シャツは胃、髪飾りは腸です。内臓というモチーフでできるかぎりかわいく仕上げようと思いました。というのも、曲のイメージ的に、大人っぽいキャラクターやかっこいいキャラクターは違うと思ったんです。成熟していない、幼い雰囲気のキャラクターが合うだろうなと。

この曲は元々 MV で発表する予定はなく、アルバム『零号』の中の一曲にしようと考えていました。僕の中では個人的な曲、地味な雰囲気の曲だと思っていたからですが、近しい人から「これはちゃんと発表したほうがいいんじゃないか」という意見を貰い、急遽 MV を作りました。

## P40『ビューティフルなフィクション』

イベント『初音ミク「マジカルミライ 2018」』で、初音ミクという存在しないものの元にみんなが集まって楽しんでいる光景にあまりにも感動し、僕なりのテーマソングとして勝手に作りました。映画や漫画など僕が受け取ってきたフィクション、そして今僕が作ったものを受け取ってもらっていることへの感動を込め、MV でもそれらのモチーフを手描き風に描いていただきました。

## P41『閻魔さまのいうとおり』

この時期はどうしたら曲を聴いてもらえるか悩んでいて、「自分なりのかっこいいとは何か？」を突き詰めてみようと書いた曲です。薄い語彙を並べただけにならないようしっかりテーマを決めました。モチーフになっているのは映画『ドニー・ダーコ』。逆らえない運命から逃げようとする 2 人をラブストーリー的に描きました。

背景メインの動画ってかっこいいなと思っていたので、頑張って渋谷の街を描きました。普段、ラブソングでは特定の相手を描かないようにしているのですが、この曲にはストーリーがあるのであえて男女の姿を描いています。

## P42-43『Mei Mei』

JR 東日本「ナツキタ 2018 北海道フェア」キャンペーンソング。脳みそを空っぽにして、「旅っていいよな」という曲を書こうとしたらこんな仕上がりになりました。北海道といえばジンギスカンなので、タイトルは羊の鳴き声から『Mei Mei』にしました。

トラックも歌詞も抜けの良い仕上がりが気に入っていますし、MV もかなり遊ばせてもらいました。ツアーコンダクターに扮したミクが空、川、山といった「地球そのもの」を紹介するというコンセプトです。背景は実写との合成ですが、ちょうどこの MV を作る前にカザフスタンにライブに行ったので、そこで撮影した謎の壁画や像や川を入れています。

## P44-45『ヨヅリナ』

ジャスティン・ビーバーの『What Do You Mean?』を聴いて、こういう曲を自分が作ったらどうなるんだろうと作ったものです。深夜、ボイスチャット、恋、というイメージからスタートして、インターネットで出会った顔も知らない同士の歌になりました。主人公はパソコンの向こうの相手に惹かれているけど、相手はそんなつもりないかもしれない、いわば「釣られている」設定なので、タイトルは「夜釣り」から連想して『ヨヅリナ』になりました。友達と夜中に通話しながら動画を見て笑い合って、気づけば朝になっていたり……若い頃の自分の思い出も入っています。

キャラクターは「夜釣り」なのでパジャマっぽく、ブーツやフードの耳のところは魚の形、スカートはヒレを意識しています。恋の相手をはっきり描いていないのは、パソコンの向こう側にいるのが異性とは限らないし、そもそも人間じゃないかもしれないからです。

## P46-47『おばけのウケねらい』

ナナヲアカリさんに提供した楽曲のセルフカバーです。テーマはお任せいただいたので、僕の創作スタンスをおばけになぞらえて書きました。怖がらせることにポリシーを持っているおばけが、「そのやり方はシャバいんじゃない？」とか「それは玄人っぽいな」とか言い合っている画が浮かびました。わかりやすくウケをねらうのはダサいからと、玄人向けにしすぎてもそれはある意味でウケねらいだし、わかりやすく大衆ウケをねらっているように見えるタイプにも、玄人にもウケる「本物」はいる。あらゆる創作に通じる話をおばけになぞらえたら楽しいかなと。

MV に登場する心霊写真は、自分や周囲の人のそれっぽい写真にアイマイナとどうしてちゃんを合成して作りました。それから、おばけが頭につけている額烏帽子をあらゆるものにつけました。月やひまわり、道路標識や招き猫、あげくはスカ

イツリーの先っちょなど、絶対つかないであろうものにつけまくったのは楽しい作業でした。おばけ姿のミクも気に入っています。

**P48『ボカロはダサい』**

何かのアンチの人って、その情熱を他に向けたらすごいことができそうだなと思い「ボカロはダサいと言い続けていた人が夢を叶えて宇宙飛行士になった」という歌に。「内心もう　美味しいカレーが食べたい」というフレーズから、yumasaito さんのアイデアでカレーを作るために冒険する RPG 風の MV になりました。

**P48『シックシックシック』**

生まれて初めて人間ドックに行ったら引っかかってしまった項目があり、いろいろな病名について調べる中でその字面の凄みに怖気づいたことから着想しました。MV に登場する制服にマスク姿のミクは、実は入院していて、自分が元気だった頃のことを思い浮かべているという設定です。

**P49『君が生きてなくてよかった』**

初音ミク 10 周年記念コンピレーションアルバム『Re:Start』に寄せた曲です。僕がミクと歩んできたことへの思いをストレートに書き綴りました。『君が生きてなくてよかった』というタイトルは、この曲を作る前に作った『東京マヌカン』で使ったフレーズですが、僕のミクに対する気持ちを表すのに一番良い言葉だと思い、改めてミクへの歌として作りました。僕の歌詞は生身の人間っぽくない目線から書いたものが多いので、それを歌ってくれる唯一無二の存在がミクです。ミクを媒介としてたくさんの歌や文化が派生していく、命のないものに命のあるものが救われる現象そのものにずっと魅せられています。

**P50『アップルドットコム』**

何の意味もないふざけた曲を作ろうと思っていたら、なんとかドットコム、というタイトルが浮かび、『アップルドットコム』だったらもう身も蓋もなくていいなと。そこからりんごは赤い、赤くてうまい……と連想ゲーム的に、自動書記のように歌詞を書きましたが、できあがってみたら割と意味のある歌詞になっていてちょっと反省しました。イラストとしては、りんごが某社のロゴマークに似てしまったらまずいのでヘタをグネッと曲げました。ミクの髪型にもその名残があります。

**P51『ぼくらはみんな意味不明』**

和モチーフの MV で、海外のリスナーさんが増えたきっかけの一つになったと思います。動画担当は yumasaito さんで「日本にある意味不明なオブジェを使ってほしい」とお願いしました。大仏が溶けるエフェクトが入るのですが、これをきっかけに界隈の動画でちょっとした「大仏溶かすブーム」が起きて面白かったです。

キャラクターが制服姿なのは、人生の意味を探すような思春期の未熟さを表しています。髪飾りが猫と犬なのは単に歌詞に出てくるからですが、首輪をしているのは「意味というものに囚われている」というイメージでもあります。

**P52『遊星まっしらけ』**

生まれた星が滅んで、他の惑星を目指す生き物の歌です。MV は yumasaito さんで、イラストを使わずに、ポリゴンで人間の概念を表したような世界観を作ってくださいました。宇宙がテーマなのに真っ白な空間というのが気に入っています。

**P52『SAYONARA HUMAN』**

人間でいるとつらいこと、絶望することも多いけど、それでもなんとかやっていこうじゃないかという気持ちを歌っています。身近で亡くなった方に向けた曲でもあります。この MV で初めて、当時まだ学生だった山口駿さんとタッグを組みました。途中でエラーが起きてブルースクリーンが出るイメージと実写合成をするアイデアだけは伝えて、あとはお任せでした。

**P52『動物のすべて』**

人間がテーマのアルバム『HUMAN』収録曲なので、人間の僕が前面に出てミクと歌っています。yumasaito さんに実写メインの MV にしたいという相談をして、互いにアイデアを出し合いながら作っていきました。タトゥーっぽい絵柄で動物になったアイマイナをたくさん描いたのも楽しかったです。鳥、ウサギ、鹿、犬、熊などかなりパターンがあります。

## P53『きみも悪い人でよかった』

動画担当のyumasaitoさんに「イラストは逆光にしてほぼ見せなくていい」とオーダーしました。自分で絵を描いているからこそできる判断かもしれません。

最初、少女の羽は白いので天使に見えますが、頭に触角が生えてきて、最後には真っ黒い羽の悪魔のようになります。お互いの悪い部分を分かち合う、ポジティブに捉えるというニュアンスで、だからラストで少女はちょっと笑っています。

この曲もそうですが、僕の曲に花火が出てくるときは、「複数人で言葉を介さずに一つのものを分かち合い感動している状態」を表すことが多いです。

## P54『すきなことだけでいいです』

ねこぢるさんの『ねこ神さま』に、神さまがみんなの願いを叶えたら日本が終わってしまったというエピソードがあるのですが、それはそうだよなと。真心ブラザーズさんの歌『素晴らしきこの世界』にも「ユメをみる前に現実をみよう」という歌詞があり、これも大好きなのですが、ちゃんと現実を見た上で夢を見ないといろんなことがバランス悪くなっていっちゃうよな、という思いで書きました。

MVはAono.Yさん。ベルトコンベアで好きなものが運ばれていくけど、最終的に詰まって溢れちゃう、という歌詞に合わせた世界観を構築していただきました。

## P55『hanauta』

初投稿曲のリメイクで、本来頭の中で描いていた音をようやく再現できました。今聴くと恥ずかしいラブソングです。

## P55『モチベーションが死んでる』

ツインテール今村さんが描くミクが歌いそうな曲をイメージして作りました。今村さんは常に「初音ミクが生きていないことの悲哀とユーモア」が滲む漫画を描いていて非常にシンパシーを感じており、彼の同人誌は1号からすべて持っています。なのでファンアートに近い楽曲です。この頃の僕は方向性で迷い、モチベーションがわかない時期でもありましたが、その状態が今村さんの退廃的でふざけている世界観とマリアージュされ、いい感じになったと思います。MV内のイラストで特に気に入っているのはやたら首の長いキリンです。

## P56『東京マヌカン』

『探偵！ナイトスクープ』で「マネキンと結婚したい！」というエピソードを見て、人じゃないものを愛する歌を作りたくなりました。「ぼくは人間になりきれなかった」という一節は「ピノキオ」にも繋がりますし、今思うといろいろ示唆的な歌です。収録アルバムが『Antenna』なのでイラストはジャケットの鉄塔を中心に、世界になじめない愛のイメージで描きました。

## P56『1year』

病院をテーマとしたアンソロジー企画『SANATORIUM』参加曲。命を特別視すると重たいけど、大事にしないのも違う。僕の死生観を反映しています。

## P57『祭りだヘイカモン』

初ワンマンライブ『祭りだヘイカモン』グッズTシャツのテーマソングとして作り始めたところ、面白い曲になったのでライブのリード曲として成り立つようにしました。歌詞はライブのわちゃわちゃ感とインターネットの炎上、2つの「祭り」を絡めて書きました。「ライブ」がキーになる曲なのでMVにも実写を入れています。

## P57『空想しょうもない日々』

「全員主役」のようなキャッチフレーズを聞いた時に、さすがにそれは綺麗事すぎるのでは？と疑問を抱き、「主役ではない側」が感じている心の叫びを書きました。主役ではないということで、MVでは粗大ごみがピカピカ輝いています。実写画像はミクの裏側にいる人間の生活感を表しています。

## P58『はじめまして地球人さん』

3DSソフト『初音ミク Project mirai でらっくす』テーマソング。宇宙から来たミクが地球人と恐る恐るコミュニケーションをとるというコンセプトです。この頃はミクのことを宇宙人的だと思っていました。「朝日に煙る　ラーメン食べたいよ」

など生活感のある歌詞ですが、宇宙とラーメンという遠いものを組み合わせることで「未知との交流感」、そして「朝方一緒にラーメン食べる」という「友達感」を出したいと思いました。

MV はエジエレキさんにお任せです。登場するフォントもゼロから作ってくださったので、とんでもなく手が掛かっています。

**P59『頓珍漢の宴』**

宴会と四字熟語をテーマにした楽曲。歌詞に「牛頭」と「馬頭」が出てくるので、キャラクターも牛と馬をモチーフにし、サムネでは合体させています。今はもうその場所にお店はないのですが、お気に入りの中華料理屋さんに許可をいただき撮影しました。俯瞰のカメラを設置し、イラストを描いた紙をテーブルに敷き、実際に飲み会をしつつタイミングを見て絵を入れ替えています。歌詞に出てくる「玉子焼き」はメニューになかったので特別に許可をいただいて持ち込みました。

**P60『ブラックホールヶ丘商店街』**

旅先でシャッター街を見て、きっと近くに大きなショッピングモールができて、かつて栄えていた風景がなくなってしまったんだろうなあと寂しく思いました。時代の変化には抗えないけど、ただそれだけのせいにしていると前に進めないので、自分の感情と折り合いをつけて、ほんの少し前向きになれることを願って書いた曲です。

イラストはその商店街で見かけたジャージの学生たちがモデルです。宇宙空間にいろんな駄菓子を放射状に描き、マクロなものとミクロなもののギャップを表現しています。

**P61『よいこのくすり』**

「良い子でいることは素敵」という思いと、それとは裏腹に、「良い子を演じ続ける」ことの虚しさを書いた曲です。ジャンクフードやドラッグなど、体に悪いものには依存性がありますが、「良い子でいること」もある意味で依存性があるのかもしれない。それを理解した上で、バランスよく『よいこのくすり』を服用していこうという曲です。

イラストの少女がセーラー服なのは「規律」の象徴です。頭には洗脳ヘルメット的なものを被っています。

余談ですが、アーティストが違法な薬に頼って作品を作っていたという話を聞くと、それはその人が自分だけの感性で作ったものじゃない気がして少しがっかりしてしまいます。

**P62『こあ』**

ライブに向けた壮大なテクノアンセム。水の中にいるイメージの曲なので、バラバラにした動物の模型を水に入れて抽象的に撮りました。

**P62『たりないかぼちゃ』**

ファミリーマートのハロウィン企画「ミク LOVES ファミマ♪キャンペーン 4th HappyHalloween ☆ TRICK or MIKU ?」のために書いた曲です。ハロウィンで盛り上がる勢と、それをバカにしている勢の温度差について書いてみました。ミクはハロウィンのコスプレをしていますが、『たりないかぼちゃ』というタイトルなので、袖部分の布が足りていなかったりします。

**P63『Last Continue』**

ボカロに出会う前、専門学校を卒業しこれからどうしようかなという時期に作った曲が基になっています。ボカロを始めて『CONTINUE』として発表し、2010 年にバンドアレンジの『Re：Continue』を出し、2014 年にようやく打ち込み技術も上がり、頭の中の音を再現できるようになったので完成形として『Last Continue』を出しました。

ビジュアルは RPG 風。いろいろな言葉や考え方が心にぐっさり刺さっているイメージで、ゲームの吹き出しが体に刺さって横たわる少女を描きました。光が射しているのは『MOTHER』シリーズのコンティニュー画面を意識しています。ゲームオーバーになって、そこから立ち上がれたら、と。

**P64-65『すろぉもぉしょん』**

MV も含めると 3 か月くらいこの 1 曲にかかりきりでした。「病気になってから治るまで」を人生に重ね、「曲が始まってから終わるまで」の時間軸の中で表現するというアイデアをきちんと形にしたくて、とてもこだわって作りました。

「ここでこんな表情を」「こんな風に動かしたい」と頭の中で思ったものを再現するために、細かい差分も含めかなりの数の絵を描いています。

当時ニコニコ動画で発表していたので、インタ

ラクティブなアクションをやってみたく、「この曲は今　一分とちょっと／あなたは今　生まれて何年？」のところでミクがシークバーを指すという遊びを入れました。YouTube ではちょっとずれてしまうのですが（笑）。

デザインとしては療養中だからパジャマ、胸元の矢印は時計の針です。頬が赤いのは熱があるからですが、実はこの頃、世のアニメキャラクターの頬が赤くなり始めたことが気になっていたんです。「かわいらしさ」の記号としてチークのように塗っているのはわかるのですが、僕には熱があるみたいに見えていて（笑）。本当に熱がある設定ならこの流行の表現を思い切りできるチャンスだと。僕が流行を取り入れるときは、「流行っているから」以外のエクスキューズ、その表現をやる理由をいつも探しているのですが、これもその一つです。

**P66『ラブ イズ オノマトペ』**

EDM を意識していますが、当時の EDM はマッチョな精神性のイメージだったので、あえて歌詞は内省的に、イラストもパステル調でメソメソした感じにしました。心も体もバラバラになるイメージの曲なので、イラストもミクの頭や腕が外せるようレイヤーを分けて描き、衣装もチャックやネジなど外れやすいものでデザインしました。

**P66『絵の上手かった友達』**

ぺんてる×初音ミクコラボ商品のイメージソング。動画は森井ケンシロウさんで、子供時代の遊び心と恋心、気持ちの釣り合わない残酷さをボールペンによるアニメーションで表現していただきました。

**P67『それぞれに人生がある』**

『ゲームポット byGMO ×初音ミク』提供曲。オンラインゲームをテーマにしつつ、プレイしている人間の現実を掘り下げた歌詞になっています。クロユキさんの 8bit 風 MV が世界観にぴったりで素敵です。

**P67『ゴージャスビッグ対談』**

共作がテーマのコンピレーションアルバム『MIKU-MIXTURE』参加曲です。僕は友人でもある鬱 P と作りました。着想としては、僕がたまたまネットで見かけた、よくわからない人同士がものすごく偉そうに対談している記事が「まずこの人たちは誰なんだろう……」とめちゃくちゃツボに入った、という話を鬱 P にしたら「面白い」と盛り上がって曲になりました。コード進行や展開は鬱 P、メロディと歌詞は僕が担当しています。MV のイラストは「なんか偉そう」のイメージでクジラとゾウ、実写部分は ARuFa さんに曲をお渡しして自由に撮ってきていただきました。

**P68『ニナ』**

曲も歌詞もすごく良い具合にまとまり、自分に作れるバンドサウンドの曲としては最高傑作かもと思うぐらいには気に入っています。

生きている以上日々未来に向かっているけど、いざ辿り着いたときそこは幸せじゃないかもしれない。「空飛ぶ車」も実現したら邪魔と言われたり、未来は明るいことばかりじゃないかもしれない。それでも、未来の人から過去の人へ、優しさなのか悟りきっているのかわからないけど「まあ大丈夫だよ」とメッセージをくれる、そんな風景を想像しました。MV はエジエレキさんが科学者のミクという設定でかわいく作ってくださいました。

**P69『胸いっぱいのダメを』**

世の中でダメと言われるあらゆることを想定していって、それでも残る希望のような何かについて歌っています。『ニナ』もそうですが、作詞をするとき、あらゆる可能性を羅列していく書き方をすることが多く、その原液のような曲です。一つのことを書くだけじゃ解像度が上がらないので、相対する概念をぶつけてその先に見えるものを考えています。

タイトルは大槻ケンヂさんが手掛けた楽曲『踊るダメ人間』と『綿いっぱいの愛を！』から。イラストは「ダメウェポン」を抱えたミクがダメ印の上に座っています。

**P70『こどものしくみ』**

子どもってピュアとされるけど、実は大人の顔色を窺っていたり、大人を騙すこともあったり、結構賢しい。でもやっぱり幼くて不完全。そんな視点から夏の思い出を書きました。特に 2 番以降の歌詞が気に入っています。「大人に貰った　おもちゃの笛を鳴らしてる／だから　やましい気持ちで白痴のふりを続けてる／まるで　夕闇の地雷

原を走るみたいだな／影が伸びてく　祭囃子は遠のく」。何も知らないふりをしているけど、なんとなく現実も知っている感じ、あったなあと。
イラストは虫捕りする一方で自分も何かに囚われているミクです。この頃から彩度が高い絵が好みになり、人物の影にはっきり明暗をつけて描くようになりました。

### P71『ストレンジアニマル』

SEGA『project575』提供曲。5・7・5で歌詞を書くという制限があったのですが、制作は非常に楽しかったです。内容としては、ちょうどゆるキャラが流行っている時期で、それに乗っかって出現し始めた「商業的ゆるキャラ」についてちょっとツッコミを入れるように書きました。ゆるキャラは作った人の無意識から滲み出るゆるさが魅力のはずなのに、意識してゆるさを出すのはどうなんだ？と。イントロのシンセはゆるキャラの足音を意識しています。
MVは冒頭で某キャラに似たシルエットのどうしてちゃんを出したり、いろいろなシルエットを描いて遊びました。

### P72『ゲームスペクター2』

子供の頃によく遊んだ友達が幽霊となって現れ、「ゲームをクリアしたら成仏してやる」と言って部屋に居着くという設定です。ゲームオーバーでキャラが死ぬたび、すでに死んでる奴に「死んでんじゃねえ！」と言っている画が浮かびました。
ビジュアルは珍しく男の子です。子供部屋のイメージで、お菓子が散乱し、破れた座椅子の周りに「バーチャルボーイ」（僕も発売日に買いました）など往年のゲーム機があります。タイトルに「2」とついていますが、「1」はありません。ゲームソフトって「2」こそ名作のイメージがあるので。

### P73『ひとりぼっちのユーエフオー』

「自分が思う面白さが伝わらない状況」をUFOが見えてしまった人に、「自分の感性が信じられない状態」を病気になぞらえています。MVはエジエレキさん。ミクが着ているウサギのパジャマがかわいいです。

### P73『アッカンベーダ』

『VOCALOID3 Library MAYU』付属CD収録曲。MAYUは公式設定でヤンデレキャラだったので、絶対にヤンデレの曲は作らないと決意し、普通の女の子の恋愛の歌にしました。「自分がキャラを演じていることに自覚的であること」がテーマです。MVはエジエレキさんですが、いつもとタッチが違って新鮮でした。

### P73『m/es』

死などの悲劇で安直に泣かせるフィクションが好きではなく、「手術したら普通に助かりました、メスで悲劇を切り裂きました」と、そういった作品を台無しにするような曲に。MVはすす泥棒さんにほぼお任せで、ベルトコンベアで肉片が運ばれ、最後、それが生き物になって踊り出すけど崩れてしまう、という展開をかっこよく作ってくださいました。

### P74『週刊少年バイバイ』

ボカロシーンで高速の曲が流行っていて、「速いほど聴いてもらえるからもっと速く！」と追い立てられるような状況だったので、「追い立てられて短命で終わってしまう週刊連載漫画」という設定を思いつきました。漫画家視点よりキャラクター視点のほうがミクに合うと思い、打ち切り漫画のキャラクター視点で書きました。
イラストはベレー帽、効果音柄のワンピース、雲形定規の髪飾りのミクで、口からインクを吐いています。背景はボツ原稿のイメージで、紙に描いてぐしゃぐしゃにしたものをスキャンしました。

### P75『スケベニンゲン』

コンピレーションアルバム『0003:a galaxy odyssey』収録曲。先鋭的なボカロPが集まっていたので、そこに合う曲にしようとブレイクコアでトラックを作り、歌詞も意味のない内容を心がけました。
MVではポッジーニさん考案キャラ「初音ミルク」にダンサーとして参加してもらいました。動画担当のはんにゃGさんとは、打ち合わせの際に画家の大竹伸朗さんとミュージシャンのヤマタカEYEさんのFAX交換漫画を収録したカオスな本『ドンケデリコ』をお互い持っていることが発覚し、それを共通言語に無茶苦茶な方向性でMVを作ろうと決めました。

## P76-77『ありふれたせかいせいふく』

メジャーから出したファーストアルバムの１曲目です。僕にしては珍しくかなり抽象的な歌詞ですが、MVをお願いしたエジエレキさんは抽象的な概念を映像化するのが得意な方なので、良いシナジーが生まれたと思います。もともとエジエレキさんのことは、倉橋ヨエコさんの『夜な夜な夜な』のファンメイドMVを見て素晴らしいセンスの方だなと思っていたのですが、その後『バイビーベイビーサヨウナラ』というボカロ曲のファンメイドMVも制作されていたので、ボカロも聴かれるんだったら、興味を持っていただけるかもと思いオファーさせていただきました。結果、僕はただ曲をお渡ししただけで、想像以上の素晴らしいクオリティのものをいただいて「最高！」と感激しました。

特に気に入っているのは、ミクが絆創膏を外したら、封印が解けたように体の中からいろいろなものが出てくるところ。サビで骸骨が出てくるのもかっこよくて好きです。キャラデザもモチーフも何も指定していないのですが、何も言わずとも、僕がかっこいいと思うものや、僕がよく使う「人ならざるもの」のイメージが出てきたりと、共感・感動する部分がたくさんあり、映像的にも大好きな曲です。

## P78『不思議のコハナサイチ』

辛い現実でも、物語のようなどんでん返しが起こってほしいという願いを込めて作った曲です。歌詞の途中で、実在する映画や小説の「こうだと思っていたことがひっくり返る」展開を羅列しました。MVで喜怒哀楽の表情のミクが一瞬出てくるのは、いろんな感情が綯い交ぜに出てくるイメージです。

## P78『かえるたちのうた』

童謡っぽい歌ですが、ボカロという小さな世界でやっていたことがどんどん広がっていく戸惑いも込めています。歌唱にリンを使った理由は覚えていませんが、リンの幼い声が合うと思ったのかも。16分割のイラストは、岡崎京子さんの漫画内にこういった分割のコマがあって、かっこいいと思い参考にしました。左上の写真は即売会に参加したときのものです。

## P79『ラブソングを殺さないで』

よくあるラブソングで歌われるような画一的な愛だけが愛ではない、ということを歌っています。3DCGはすす泥棒さんにお願いし、僕はフレームになっているイラスト部分を描きました。左はポジティブなミク、右はネガティブなミクですが両方ともハートに棘が刺さっていて、愛にはいろんな困難があるということを示しています。

## P79『化物宇宙』

「宇宙」がテーマのコンピレーションアルバム『universe』に書き下ろした曲です。「化物」イメージで宇宙船と一体化したミクのイラストをしっかり描いたのですが、MVでは２番のサビのあたりで一瞬、横切るようにしか出てきません。ぜひ探してみてください。

## P80『レアノ』

アニメイトのニコニコ動画フェアで配布されたCDに提供した曲。期間限定の配布だったので「レア」をテーマに、歌唱も初めてリンを使いました。イラストは生配信をしながら描いていて、視聴者の方と「修学旅行で木刀を買う精神性もレア」と謎に盛り上がり、その他の小物もレアなものを意識しましたが、今見ると微妙にレアではないですね。

## P80『Floating Shelter』

ボカロを始めて３年目、これからどうなっていくんだろうという思いを詰め込んでいます。歌詞に「石から落ちて３年目」「後に引けずに10年目」といったフレーズがありますが、今年で15周年を迎えたので感慨深いです。MVに登場する部屋は僕の実家の作業場と、友人である風呂埋葬P（36g）とぽわぽわP（椎名もた）の部屋の写真をトレースしています。

## P80『おもひでしゃばだば』

アルバム『Obscure Questions』に静かな曲を入れたいと思い、自分の中にあるフォークな部分を前面に出して作りました。歌詞もフォークらしく春夏秋冬の思い出を振り返っています。生活感のある歌なので、ミクではなくオリジナルキャラクターにしました。靴がサンダルにスニーカーと左

右で違っていたり、ちょっとだらしない雰囲気の女の子を意識しました。

## P81『マッシュルームマザー』

同人サークル「ガスコンロ」のコンピレーションアルバム『鍋祭り』で「茸」というお題から作った曲。最初は一枚絵の動画でいこうとしたのですがしっくりこず、いろいろ考えた結果、簡単な動きだったら描けるかもと初めてアニメーションに挑戦しました。人間のシルエットは、ボカロPのKulfiQさんがカラオケでふざけて踊っていたのをたまたま撮っていたものからトレースしました。目や口や手の実写カットは僕自身のものです。

## P81『ユメネコ』

どんなに悪夢のような出来事があっても、最終的に猫ってかわいいしそれって希望だよね、という曲です。イラストも悪夢のようなものとかわいいものの対比を描きました。モノクロ部分は生配信をしながら何日もかけて描き込んでいて、「ドクロとかどうかな？」など視聴者の方からのリアクションをかなり反映しています。

## P82『腐れ外道とチョコレゐト』

ニコニコ動画の「週刊VOCALOIDランキング」で初めて1位を取った曲です。「ゴシップ」というテーマと、「規制音が徐々にメロディになってギターソロのように暴れ出す」というアイデアから生まれました。

当時、ボカロ界隈でBPMの速い高速ロックが流行っていたので、自分も高速ロックを作ってみようと制作したのですが、今改めて聴くと自分の好きなブレイクビーツやグリッチエフェクトが入っていて、流行りに乗り切れていない歪な曲だな、と思います。

ただ、流行りの高速ロックを作れたと信じ込んでいた当時の自分は「流行りもので評価されてしまった……」とモヤモヤしてしまい、「もう『腐れ外道とチョコレゐト』みたいな曲は作らないぞ」というモードになっていきました。

イラストは、「メディアが報じるゴシップの象徴であるチョコレートを食べさせられている少女」をイメージして、腕から出ている配線などサイバーパンク的な要素も取り入れつつ、病み系のかっこいい雰囲気が出るように描きました。この時期はミクばかり描いていたのですが、この少女は珍しくミクではありません。

## P83『ことのら！』

『今年の終わりと始まりをノラ猫は見ていた』のピアノリアレンジ。イラストはピアノと、原曲に出てくる猫を描きました。

## P83『からっぽのまにまに』

仏教的「空」の価値観を軸にしつつ、和ロックに挑戦した曲です。ビジュアルはギターを持ったミクを中心にしたコラージュです。それぞれのモチーフに意味はなく、感覚的に選んで配置していきました。「意味がないものが重なっている」ことでからっぽ感を出したかったのだと思います。当時使っていたガラケーだったり、自分で撮った電車や自分の口の写真、水族館で撮ったタコの足をトレースしたものなど、思いついたイラストを描き足しつつ組み合わせていきました。なお、ミクの足に絡みついているのはアイマイナの髪の毛です。

## P84『アイマイナ』

人の価値観って脆くて曖昧なものなんじゃないか、という思いで書きました。「嫌いな物のほころび　暴露するのは容易い／好きな物の欠点は　甘い目で見てシンパシー」というフレーズがあるように、自分の「好き」や「嫌い」も疑ってしまう僕の性質がよく出ている歌詞だなと思います。

曲が完成したあとはどんなイラストにするかで悩みましたが、ふと無数の小さなキャラクターがこちらの曖昧な部分を見透かすようにじっと見つめてくる絵が浮かびました。アイマイナが生まれた瞬間です。正直、こんなに僕を象徴するマスコットキャラになるとは思っていませんでした。

## P85『どうしてちゃんのテーマ』

『初音ミク・アペンド（MIKU Append）』というミクに様々な声の表情を加える追加音声ライブラリが出たとき、ライブラリの一つである[Solid]の初音ミクを想像で描く生配信をしたのですが、描くのに疲れてしまい、「ソリッド」の「剃り」からの連想でカミソリを持ったもはやミクでも何でもない落書きを描きました。なんとなく「どうして……」のフキダシを加えたところ、「どうしてちゃん」に名前が決まり、どうせだったらテー

マソングを作るかとこの曲が生まれました。すべて悪ふざけです。

わけのわからない世界で考え続けることの大事さを歌っています。でもすべてに答えがあるわけじゃないから、答えは出さずに一緒に悩んでくれる存在がどうしてちゃんです。

**P86『恋するミュータント』**

ミュータントがミク扮する研究員に恋をして悲しい結末を迎える、という悲恋の歌。イラストはミュータントの内臓的な雰囲気を出したくて、「ポスタリゼーション」という色数を減らし絵の具っぽさを出すエフェクトをかけて絵画のようにしました。右上に小さくどうしてちゃんがいますが、これが動画への初登場です。

**P86『人間なんか大嫌い』**

同人サークル「ガスコンロ」の『フリーソフト縛りで曲を作ろう！』企画参加曲。フリーソフトのみで作っているので、ドラムなどの音がチープになっています。前衛的なイラストはおにゅうさんがWindowsに入っているフリーのペイントソフトでミクを描いたものです。ふざけて描いたそうですが、攻撃的なこの曲にぴったりなイメージになりました。

**P87『OZ』**

他の人の前では失敗続きでも、大切な人の前でだけ魔法を使える魔法使いの曲です。最後は結局片思いで終わります。イラストは『オズの魔法使い』をモチーフにミクを描きました。まだ幼い不器用な魔法使いが頑張っているという設定で、目を怪我して眼帯をしていたり、ブカブカのハイヒールを履いていたりします。

**P87『はっぴーべりーはっぴー』**

都会を歩きながら様々な揉め事や不幸を見て愚かだと見下しているけれど、いざ自分や知り合いが当事者になったとき冷静でいられるか？という発想から生まれた曲です。動画には新宿のガード下の風景をモノクロ加工して使いました。この曲からミクの目をぐるぐるで描くようになりました。得体のしれない雰囲気が出て、自分のミクにぴったりだなと。

**P88『素晴らしい世界』**

宇宙がテーマ。対比でどうしてもブラウン管テレビとかこたつとか、日常感を入れたくなってしまいます。

**P88『好き好き好き好き好き好き好き好き好き』**

全力で電波系ラブソングに挑戦しました。かわいいと見せかけて不穏な歌ですが、ガワはとにかくかわいさに振ろうとデフォルメに。

**P88『Re：Continue』**

『CONTINUE』ロックアレンジ版。歌詞が内省的なので泣いているミクを、ザラッとした写実的な質感で描きました。

**P89『ボーカロイドのうた』**

ジャンルの垣根なくいろいろな人が集まるボカロ界を素晴らしいと思い作りました。ミクが浮かびあがっている機械は当時僕が使っていたiPod mini。

**P89『今年の終わりと始まりをノラ猫は見ていた』**

「今年も生き延びられたな」と振り返る年末の雰囲気が好きで書いた曲。絵は夜景、コート、白い息と、年末のCMを意識しました。

**P90『サイケデリックスマイル』**

混乱と狂気の曲なので絵もサイケに。背景はペイズリー柄の布を撮影して加工しました。髪の主線がないのも気に入っています。

**P90『おもちゃロボット』**

愛されていたロボットが捨てられる悲哀を書きました。イラストのロボは無表情に見えるよう心がけて描いています。

**P90『HANANOBI GIRL』**

曲が暗い感じなのでイラストはポップにデフォルメ。ミクの鼻が歌詞に合わせて変化していきます。

**P91『ポンコツ天使』**

下界に落とされた天使がふてぶてしく生きている曲。絵がオリジナルキャラではなくミクなのはそのイメージに合うと思ったから。

**P91『カケラ』**

「バラバラになる」がテーマの曲で、ミクがバラバラになっている絵が浮かびました。パーツの継ぎ目はフィギュアのイメージです。

**P91『Fireworks』**

僕の実体験です。夏の暑い日、友人から花火大会に誘われて原付で向かう。ミクにどうやってヘルメットを被せるか悩みました。

**P92『Cocoa』**

曲名がココアなのと、記憶を思い出そうとする曲だからセピア色の絵に。老いたミクは、今だったらツインテールには描かないと思います。

**P92『センセイニイッテヤロ』**

監視され「先生に言ってやろ」と言われた子が安全圏から落ちていくイメージ。すぐに動画を上げたかったので一気に描きました。

**P92『あめのひ喫茶』**

当時振って落とす曲ばかり書いていたので、あえて何も起こらない曲に。1枚の絵の中で縮尺を変えるのが好きで、カップの隣に小さなミクを描きました。

**P93『キラキラ☆カプセル』**

「みんなが『まとも』だと思っていることって本当にまともなのか？」と、色とりどりの薬に囲まれながら価値観を疑っているミクを描きました。

**P93『eight hundred』**

『ドラえもん』のひみつ道具「ウソ800」と自分の「死」に対する向き合い方を重ねています。ミクの衣装や髪飾りは喪服のイメージです。

**P93『ネガポジ』**

どうしたら明るい歌詞を書けるか悩んでいたとき、ネガポジ両方の視点でなら書けるのではないかと思い作った曲です。絵もネガポジ反転させています。

**P94『CONTINUE』**

『Last Continue』と同じくRPGゲームの主人公です。ドット絵を描こうとしたのですがうまくいかず、頭身だけ8bit風になりました。

**P94『ゆめばなな』**

人間の話かと思いきやオチは……という、とにかく驚かせようという思いが先走っている曲。バナナを頑張って写実的に描きました。

**P94『玉葱』**

オリジナル作品4作目にして自分の価値観の核の部分を恐る恐る出した曲です。自分自身を爆発させたいという思いが絵に出ているのかもしれません。

**P95『ひとりの帰り道』**

小学生あるある。余談ですが小学生の頃、ノートに書いた詩を友達に見られてすごく恥ずかしかったです。「罪のない人間はいるんだろうか」みたいな……。

**P95『宇宙みかん』**

僕の好きなミクロとマクロ、四畳半と宇宙という概念がすでに2曲目で表れていて驚きます。冥王星が太陽系から外されたことをきっかけに作った曲です。

**P96『ハナウタ』**

この第1作目を投稿したことがきっかけでピノキオピー（当時はピノキオP）という名前になりました。ボカロならラブソングにしないといけないという思い込みから生まれた曲で、照れ隠しで絵はふざけています。すべての始まりの歌です。

ピノキオピー
2009年に動画共有サイトにてボーカロイドを用いた楽曲を発表し、ピノキオピーとして活動開始。
以降も精力的にオリジナル楽曲を発表しつつ、イラストやMVの制作、バンドセットでのライブパフォーマンス、他アーティストへの楽曲提供など多方面で活動している。
代表曲は『すろぉもぉしょん』『神っぽいな』『匿名M』『ノンブレス・オブリージュ』『腐れ外道とチョコレゐト』など。

ピノキオピー VISUAL COLLECTION 2024-2009 PINOCCHIO

2024年10月20日　初版印刷
2024年10月30日　初版発行

著　　者　ピノキオピー

装　　幀　森敬太（合同会社 飛ぶ教室）
編集協力　高畠正人
発 行 者　小野寺優
発 行 所　株式会社河出書房新社
〒162-8544
東京都新宿区東五軒町2-13
電話 03-3404-1201（営業）
03-3404-8611（編集）
https://www.kawade.co.jp/
印刷・製本　TOPPANクロレ株式会社

Printed in Japan
ISBN978-4-309-03214-6

ピノキオピー VISUAL COLLECTION 2024-2009

# PINOCCHIO



ピノキオピー

河出書房新社